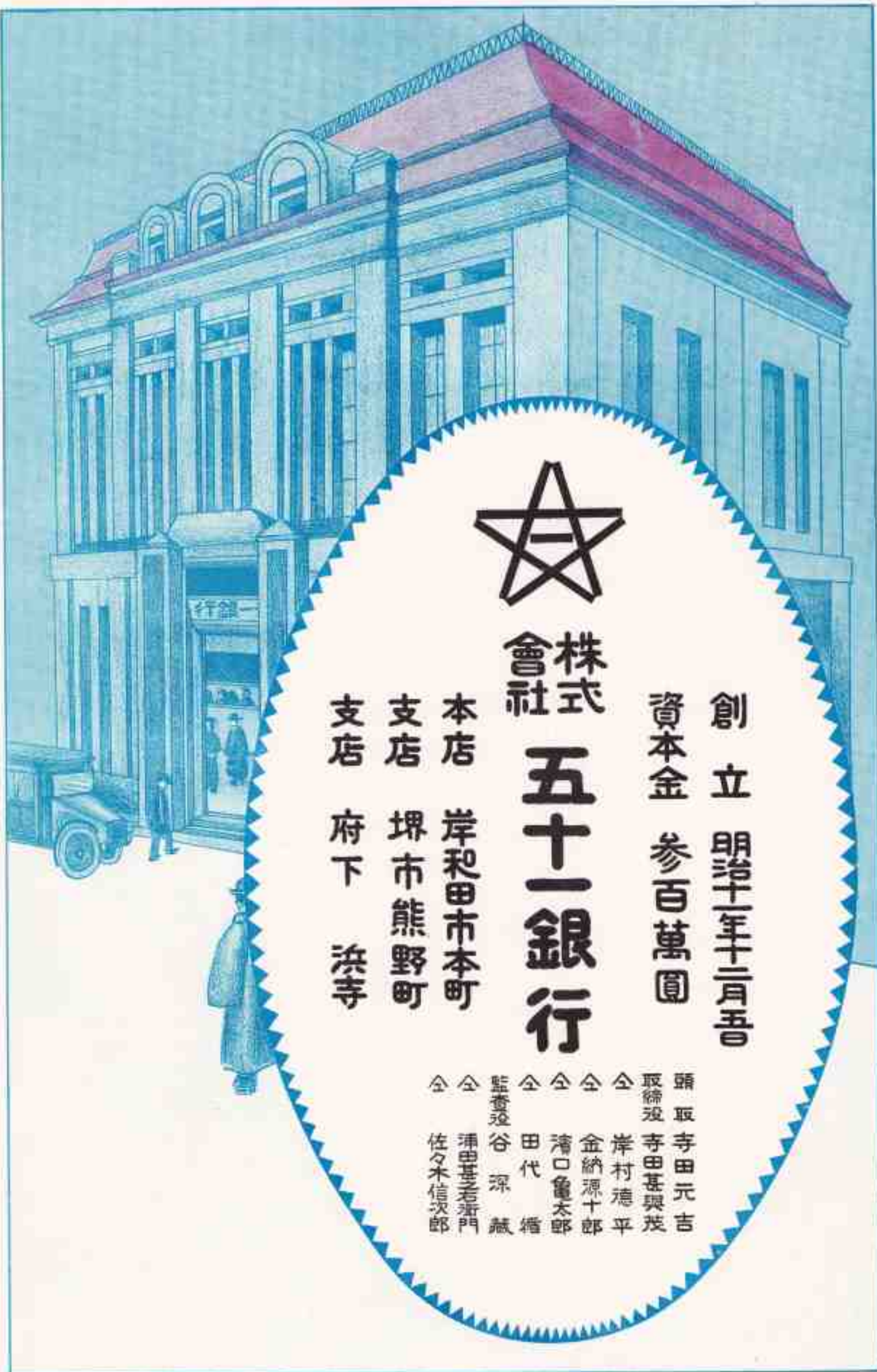




株式會社

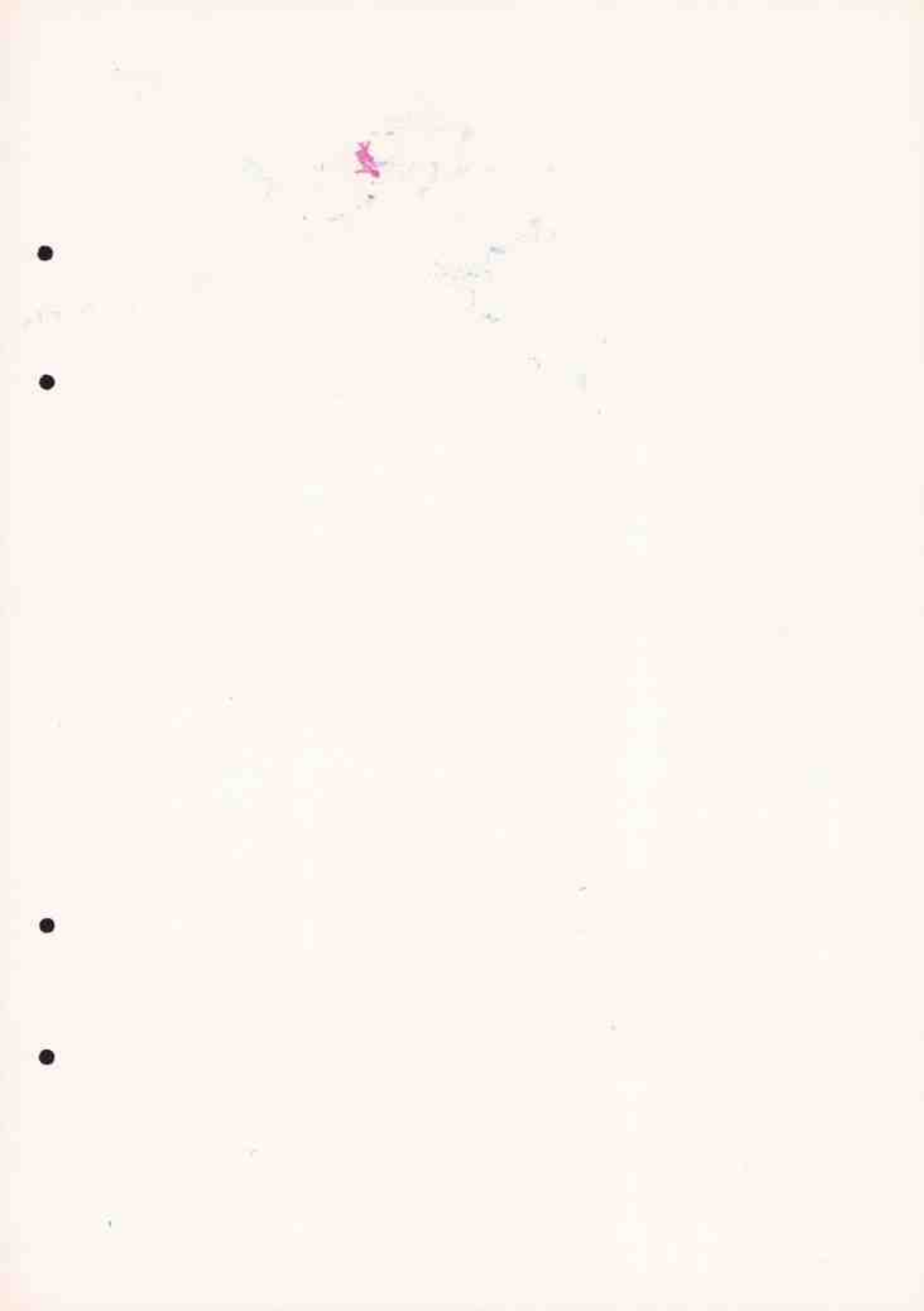
# 五十二銀行

創立 明治十年十二月

資本金 參百萬圓

本店 岸和田市本町  
支店 堺市熊野町  
支店 府下 湊寺

頭取 寺田元吉  
取締役 寺田甚與茂  
全 岸村德平  
全 金納源十郎  
全 濱口龜太郎  
全 田代 經  
監査役 谷 源 藏  
全 浦田甚老衛門  
全 佐々木信次郎





株式會社  
金 行 銀 一 十 五



第五輯  
金融と工業界  
銀行其他諸會社の現狀



取締役専  
門 氏 師 太 順 口 清



氏 吉 北 田 寺 取 國

株式會社五十一銀行

株式會社五十一銀行は明治十一年十二月當市の有力者寺田重  
興氏氏先納權一氏現代理政に依り金銀兩業の資本金を以て創立  
されたる第五十一國立銀行の後身にして既に當市に於ける銀行  
業の嚆矢である。其創業に先んじ行員數名を銀行界の耆宿諸君  
從一氏の經營に關する第一國立銀行に提議して其經營方法及銀行  
簿記を學ばしむる等如何に用意の周到なりしかを思はしむ。明  
治三十一年一月銀行法令發布に依り株式會社に變更し資本金を  
五拾萬圓となし五十一銀行と改稱し明治三十五年一月岸田田銀  
行を合併して資本金七拾四萬九千六百圓となす。總じて六正元  
年九月更に百五拾萬圓を増資し地方産業の振興と特に益々その  
金融の圓滑を圖り經濟力の進歩に貢献した。其發展の好影響



役員重  
任 氏 師 次 信 本 佐



人 配 文  
氏 師 代 川 役 重

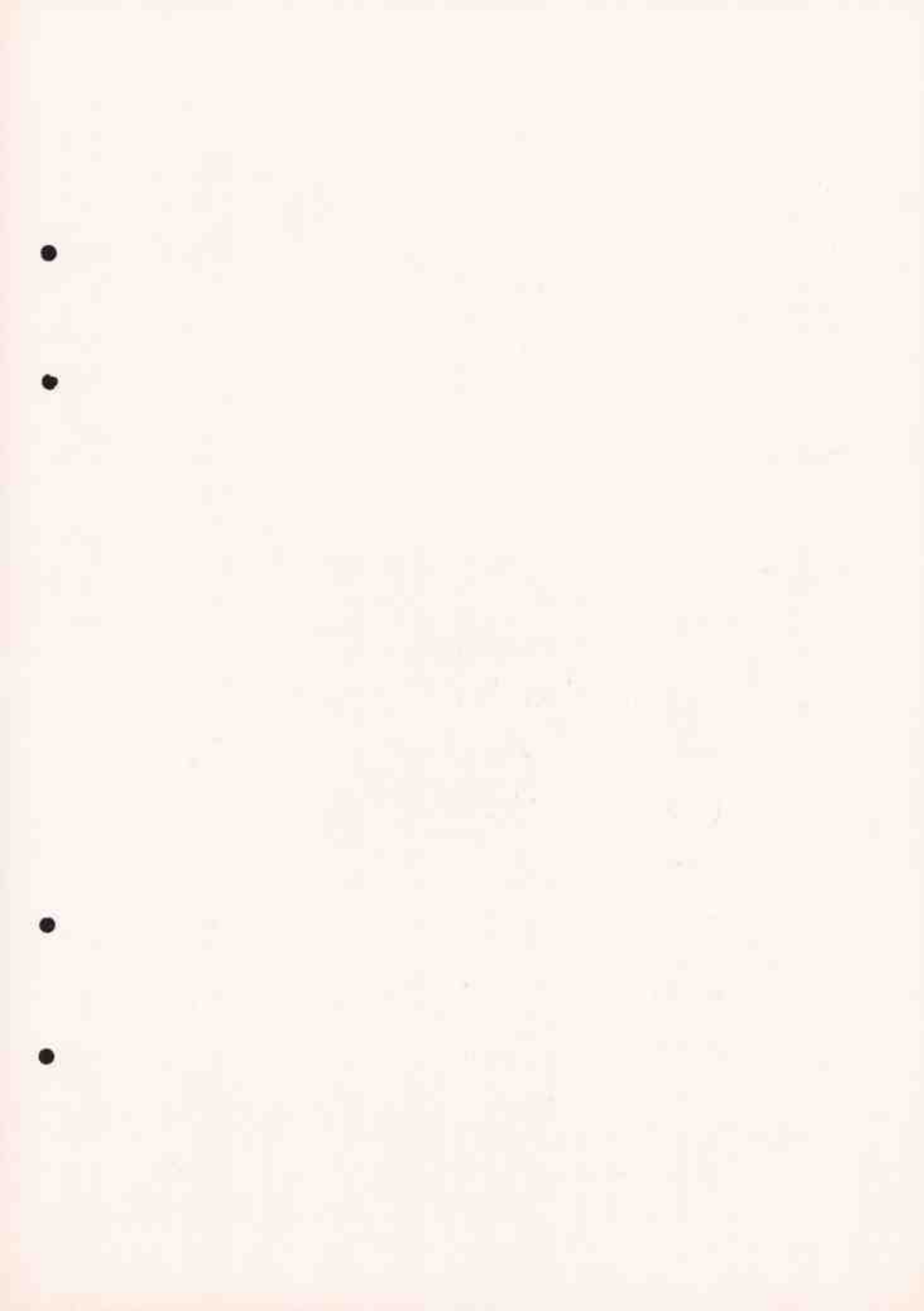




株式會社  
寺田銀行

創立明治四十年  
資本金貳百萬圓

本店 岸起界町  
支店 堺市宿院



合 計 三〇、〇〇〇、〇〇〇 元

利 益 配 當

當期純益金 一、四〇〇、〇〇〇 元

内

法定準備金 三、〇〇〇、〇〇〇 元

賞 與 金 七、〇〇〇、〇〇〇 元

配 當 金(全一割) 三、〇〇〇、〇〇〇 元

長期繰越金 三、〇〇〇、〇〇〇 元

一、重 積

頭 取 寺 田 元 吉 氏

取 締 寺 田 茂 興 氏

同 岸 村 徳 平 氏

同 金 納 藤 十 郎 氏

同 諸 口 肇 太 郎 氏

同 掛 代 福 氏

同 松 本 謙 次 郎 氏

同 諸 田 基 之 右 衛 門 氏

同 佐 々 木 謙 次 郎 氏

同 佐 々 木 謙 次 郎 氏

同 佐 々 木 謙 次 郎 氏

一、事 務 分 掌

本店貸付係長 松 田 幸 太 郎 氏

場 支 店 長 平 松 茂 治 氏

清 寺 支 店 長 和 田 彌 三 郎 氏

厚和田發達史 第五輯 金融と工業界

## 株式會社寺田銀行

厚和田市の中樞地帯に新築石造の建物として隆々として建つて居る。銀行は厚和田市の實業を補助するは株式會社寺田銀行である。銀行は厚和田市の實業を補助するは株式會社寺田銀行である。



株式會社寺田銀行の建築

創設者代取寺田利吉氏



若林 楠 太 郎 氏

日つち門として人も知る寺田利吉氏創設として之を主宰し、厚和田市に於ける主大動脈として重きをなしてゐる。

當行は明治四十年八月資本金五拾萬圓を以て主として寺田利吉氏一門の資本となり創立されたものであつて、創立原資額に幾配したが、創立後一般財界の膨脹は時の現狀に於ては許さず、乃ち大正八年十二月百萬圓に増資して株式の一部を特に公衆の形式によりて社地方に於ける有力人士との經濟的提携を計り時代の要求たる資本の民衆化を遂行し以て方面金融界に於ける地位を確立し今日に及んだ。

創設寺田利吉氏は先代利吉氏の聲望と巨資を以て其の事業を組織し、頭腦の明晰常識の宏闊、加ふるに經營の大家を以てして其の實力を充實し、結果を要め此處に中流として振くべからざる消勢力を我利利田の財界に扶植し、兩派の經濟界に説き及ぼしつゝあり。

當行の如きは既に私家の聲望を以て自から信用の厚きを有て居るが、創設その人が新進氣鋭と英邁なる天才及び教養に充てる人格者たると同様に公衆の心に厚く社會奉仕に厚く信仰を有せるとは多々、益々進行其者の信用を厚からしめし所以と觀るべく當行の營業振りは即ち此の反映にして、我利利田が如何に商業の雄を主體とせるかを窺ふに足る。其雄の重臣諸士の如きは、皆に相ひて厚厚實實なる紳士たる事も亦世に定評のあるところ。

方今對界の動搖常なく徹底せる必要とし、漸く銀行の人格化を叫ぶるの時に於て、當行の如きは實に理想的主體者を有するものにして、蓋し商業の模範と稱するも於て過言の辭にあらずと信ずる。

●大正十一年下半期決算表

一、資 金 所

本 店 厚和田市堀町八拾九番地

増資店 増資大町

|           |              |
|-----------|--------------|
| 一、増資金現在高  | 1,750,000.00 |
| 一、増資金現在高  | 1,750,000.00 |
| 一、貸借對照表   |              |
| 資產部 至西資本金 | 1,750,000.00 |
| 證券 貸附     | 250,000.00   |
| 手形 貸附     | 250,000.00   |
| 倉庫預金貸越    | 100,000.00   |
| 割引手形      | 100,000.00   |
| 他店へ貸      | 100,000.00   |
| 諸公債證券     | 100,000.00   |
| 社債 券      | 100,000.00   |
| 株 券       | 100,000.00   |
| 營業用土地建物什器 | 100,000.00   |
| 金額有高      | 1,750,000.00 |
| 合 計       | 1,750,000.00 |
| 負債        |              |
| 定期預金      | 1,750,000.00 |
| 特別當座預金    | 1,750,000.00 |
| 當座預金      | 1,750,000.00 |
| 資本 金      | 1,750,000.00 |
| 法定積立金     | 1,750,000.00 |
| 情 入 金     | 1,750,000.00 |
| 當座預金借越    | 1,750,000.00 |
| 他店より借     | 1,750,000.00 |
| 未納配當金     | 1,750,000.00 |

|            |              |
|------------|--------------|
| 準備利息       | 1,750,000.00 |
| 未納過引料      | 1,750,000.00 |
| 當座利息金      | 1,750,000.00 |
| 前納利息金      | 1,750,000.00 |
| 合 計        | 1,750,000.00 |
| 一、利息金分配    |              |
| 前納利息金      | 1,750,000.00 |
| 當座利息金      | 1,750,000.00 |
| 合 計        | 1,750,000.00 |
| 西          |              |
| 法定準備金      | 1,750,000.00 |
| 實 金        | 1,750,000.00 |
| 一、當 金(年八半) | 1,750,000.00 |
| 後納利息金      | 1,750,000.00 |
| 一、重 役      |              |

|       |           |
|-------|-----------|
| 重 役   | 寺田 利吉氏    |
| 取締役   | 義 本 一氏    |
| 同     | 同 伊 平氏    |
| 同     | 同 谷 吉次郎氏  |
| 同     | 同 阪 廣吉太郎氏 |
| 同     | 同 寺田 三郎氏  |
| 監査役   | 同 三 貞氏    |
| 同     | 同 寺田 三氏   |
| 同     | 同 寺田 三郎氏  |
| 支 配 人 | 若林 楠太郎氏   |

株式會社岸和田銀行

岸和田市 増資

當行の前身は岸和田町銀行であつて大正十年十二月改正町銀行法實施と共に普通銀行組織に改め岸和田銀行と稱す。故に當行を説かんとするには前身岸和田町銀行を説いて當行に



重 役 寺田 利吉氏



支 配 人 若林 楠太郎氏

及ばざるべからず。

岸和田町銀行は明治二十七年十月當地の名望家寺田利吉、金納源十郎、川崎佐太郎、植子雄三兵衛、村田徳治郎、中辰之助、森野源之助、義本茂一諸氏發起の下に資本金壹萬圓を以て創立せられたのであつて當時世人は未だ銀行の利用を知らず

株式會社 株式會社

岸和田銀行

岸和田貯蓄銀行

頭取 宇野亮一



自己財産の最安全を信じて容易に預け入れを爲さず経営者の苦心一方ならざるものあり種々なる方法に依り財産保護の安全と利益を説いて漸くその進歩を信ずる預金の収収に努めたるが如き状態であつたが當事者の誠意と堅忍とは漸次に信用を昂め明治三十九年十月資本金五萬圓に増加して茲々その發展を策したのである。

新米野苗の美風は君恩として起り當行は大正六年十二月貳拾萬圓に増資して大正十年十二月則ち増資新米野苗銀行として今日に及んで居る。

蓋し新行は一個の人格である。其ちに資本の大規模の雄を誇るよりも経営者の人格、即ち無形の信用であらねばならぬ。當行の經營者宇野亮一氏は岸和田の舊家であつて當地方切つての素家である。又和泉結核株式會社專務取締役として事業界一方の重鎮であると共に財界に雄然たる實勢力と聲望を有し堅實一方なる性格はその野蠻なる經營振りに現はれて居る。當行が雖然地方財界に重きをなし信用の惠厚とするものなきは實に同氏全人格の反映と謂はねばならない。

左に當行營業の概況を記してその發展振りを示さば

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 一、預 金 | 金(大正十一年上期自一月一日至六月卅日) |
| 前期繰越高 | 五、四〇〇、〇〇〇            |
| 當期預り高 | 二、四〇〇、〇〇〇            |
| 當期繰戻高 | 二、〇〇〇、〇〇〇            |
| 當期末現在 | 五、八〇〇、〇〇〇            |
| 一、貸 金 |                      |
| 前期繰越高 | 一、〇〇〇、〇〇〇            |
| 當期貸出高 | 一、〇〇〇、〇〇〇            |

岸和田發達報 第五輯 金融と工業界

|       |           |
|-------|-----------|
| 當期繰越高 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 當期末現在 | 五、八〇〇、〇〇〇 |

信用貸金は僅かに貳千九百圓のみにして餘は全部擔保付である。

|       |               |
|-------|---------------|
| 一、預 金 | 金(期末)         |
| 一、現 金 | 金(期末)         |
| 一、貸付金 | 金(大正十一年六月三十日) |

資產之部

|           |           |
|-----------|-----------|
| 繰込未済資本金   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 繰上貸付      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 手懸貸付      | 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 當期預金貸越    | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 擔保ハ貸      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 貸 金       | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 諸公債證券     | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 社 債       | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 擔保付社債     | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 株 券       | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 對信用土庫建物社債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 所有財產不動産   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金有義      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合 計       | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 負債之部      |           |
| 資 本 金     | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 法定準備金     | 一、〇〇〇、〇〇〇 |

|           |           |
|-----------|-----------|
| 期終積立金     | 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 行員退職慰勞積立金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 當 座 預 金   | 五、八〇〇、〇〇〇 |

特別當座預金

|           |           |
|-----------|-----------|
| 定期預金      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 別 設 預 金   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 通知預金      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 代金取立手形    | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 未 結 利 息   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 未結過對引料    | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 定期預金所得稅   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 當 期 純 益   | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 前 期 繰 越 金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合 計       | 一、〇〇〇、〇〇〇 |

一、利益配當

|            |           |
|------------|-----------|
| 當期純益金      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 法 定 準 備 金  | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 別 設 積 立 金  | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 行員退職慰勞積立金  | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 其 他 金      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 配 當 金(年一割) | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 後 期 繰 越 金  | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、重 役      | 一、〇〇〇、〇〇〇 |

取替校領取

|           |           |
|-----------|-----------|
| 宇 野 亮 一 氏 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
|-----------|-----------|

|   |   |   |   |     |
|---|---|---|---|-----|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 取補役 |
| 原 | 中 | 信 | 金 | 庄   |
| 定 | 城 | 貴 | 酒 | 七   |
| 吉 | 之 | 三 | 庄 | 氏   |
| 氏 | 助 | 郎 |   |     |
|   | 氏 | 氏 |   |     |

株式會社岸和田貯蓄銀行

大正十年四月十三日法律第七十四號を發布せられたる貯蓄銀行法の改正に依り、舊来の岸和田貯蓄銀行は普通銀行に附屬變更したるにより、貯蓄預金者の機關として、資本金五十萬圓を以て、新に本行を設立し、十二年一月より開業したるものである。而して、元岸和田貯蓄銀行にて取扱ひたる貯蓄預金者の内貯蓄預金として、當行に引替を希望するものは、漸次に引替へをなし、前期末に其全部の引替を了した。開業以後とは云へ信用ある岸和田銀行と同じ系統であり、従来の貯蓄銀行よりも同一層の堅實機關を加へたのであるから、客辭なる預金も漸次に吸收されて、眞に民衆的保護機關としての面目を發揮し、將來の設備は益々期して待つべしである。

一、發達所所在地

本 店 翠 湖 市 場 街

總店 分店

一、貨物對照表(大正十一年六月三十日)

信方 噴産之郎

佛以法而度眾生

\$25,000.00

|           |               |
|-----------|---------------|
| 國債        | 1,000,000,000 |
| 株券        | 1,000,000,000 |
| 不動產低當貸付   | 1,000,000,000 |
| 預金        | 1,000,000,000 |
| 營業用土地建物什器 | 1,000,000,000 |
| 現金        | 1,000,000,000 |
| 合計        | 5,000,000,000 |
| 貸方負債之部    |               |
| 資本金       | 1,000,000,000 |
| 普通貯金      | 1,000,000,000 |
| 定期積金      | 1,000,000,000 |
| 定期預金      | 1,000,000,000 |
| 給付補償準備金   | 1,000,000,000 |
| 常期純益金     | 1,000,000,000 |
| 合計        | 5,000,000,000 |

株式會社和泉銀行

當行はもと和泉貯金銀行と稱したものであるが貯蓄銀行法の改正に依り大正十一年一月一日より現在の如く名稱を和泉銀行と改め専ら貯蓄銀行業務を営む事となつたもので、その沿革は即ち和泉貯金銀行の沿革である。その創立は明治三十年九月にして寺田西廣茂・寺田元吉・車村徳平・南四郎左衛門等の諸氏發起の下に資本金五萬圓を以て營業を開始したのである。爾後



左の通り数々の増資により、保身資本金、百万圓、積立金、六拾七萬六千圓巨額となつてゐる。

一四三十九至三萬

一六五九年九月  
貳拾萬圓

一九七三年三月 五拾五頁

一九四九年四月  
壹百萬圓

當行は財庫の親王寺田共圓茂氏一門並に廣田の有力者を以て組織され株主僅かに四十二名にして株式の移動殆んど無き状態である以上その地盤たる地盤と信用の確固性とは推知する事が



株式會社  
**和泉銀行**

株式會社  
**和泉貯蓄銀行**

頭取 寺田甚與茂





|                            |                       |                            |                            |                            |
|----------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 同                          | 豐<br>表<br>校           | 同                          | 同                          | 國                          |
| 奇<br>祖<br>久<br>治<br>師<br>氏 | 厚<br>柱<br>德<br>平<br>氏 | 山<br>相<br>集<br>三<br>師<br>氏 | 吉<br>柱<br>三<br>次<br>師<br>氏 | 覺<br>吉<br>保<br>二<br>師<br>氏 |

一、定價

|        |       |
|--------|-------|
| 佐野支店主任 | 津村秀一  |
| 大津支店主任 | 北川吉雄  |
| 堺支店主任  | 阪下彌八郎 |
| 堺北支店主任 | 中野源純  |

株式會社和泉貯蓄銀行

當行は新野密銀行法に據り設立されたものであつて大正十一年一月一日の開業（資本金壹百萬圓）であつて創業員尙淺きも「和泉銀行」より引續ける信用と地盤に據り依然として福州に於ける貯蓄銀行界の巨擘たるのみならず隆々の勢は暢びて現在の大東店の外、最盛數に到りて本店を設け更に大阪市に隣接せる天王寺村にも支店を設けするに至つた。零細の資金を保護増殖し、儲蓄貯蓄の良俗を勵養することは現代の義務にして銀行業者の責任や重且つ大である。蓋し當行の如きは當代の富貴寺田并親戚氏自ら勤儉の模範を立て、その紐帯に任じ堅固無比、洵に民衆の倚賴に背かざる財産保護機關と謂ふべきであらう。

一、營業所之組織

|      |              |
|------|--------------|
| 本 店  | 厚和田東北町       |
| 惣野支店 | 皇南郡惣野町       |
| 大津支店 | 皇北郡大津町大字下條大津 |
| 堺支店  | 堺市 大町        |
| 堺北支店 | 堺市 錦之町       |

天王寺支店 二樓架中

別 金（大正十一年六月三十日現在）  
普 通 貯 金 一、七五五、三六六、五八六  
定 期 積 金 三、五九一、三三三、三三三

一、賃價對照表(大正十一年六月三十日)

|          |      |               |
|----------|------|---------------|
| 借方       | 資產之部 |               |
| 補込未償還資本金 |      | 1,000,000,000 |
| 國債       |      | 200,000,000   |
| 地方債      |      | 117,000,000   |
| 社債       |      | 298,000,000   |
| 株式債      |      | 277,000,000   |
| 預金       |      | 278,000,000   |
| 貸出金      |      | 1,000,000,000 |
| 所有不動産    |      | 1,000,000,000 |
| 現金       |      | 200,000,000   |
| 合計       |      | 5,000,000,000 |
| 貸方       | 負債之部 |               |
| 資本金      |      | 1,000,000,000 |
| 法定準備金    |      | 1,000,000,000 |

|     |        |            |
|-----|--------|------------|
| 會 計 | 定期預金   | 7,923,000  |
|     | 給付建庫備金 | 3,200,000  |
|     | 常期純益金  | 2,000,000  |
|     | 合 計    | 13,123,000 |

—

|           |             |
|-----------|-------------|
| 法金庫債券     | 100,000,000 |
| 實收金       | 11,000,000  |
| 配當金(半一期型) | 10,000,000  |
| 債期繰越金     | 10,000,000  |

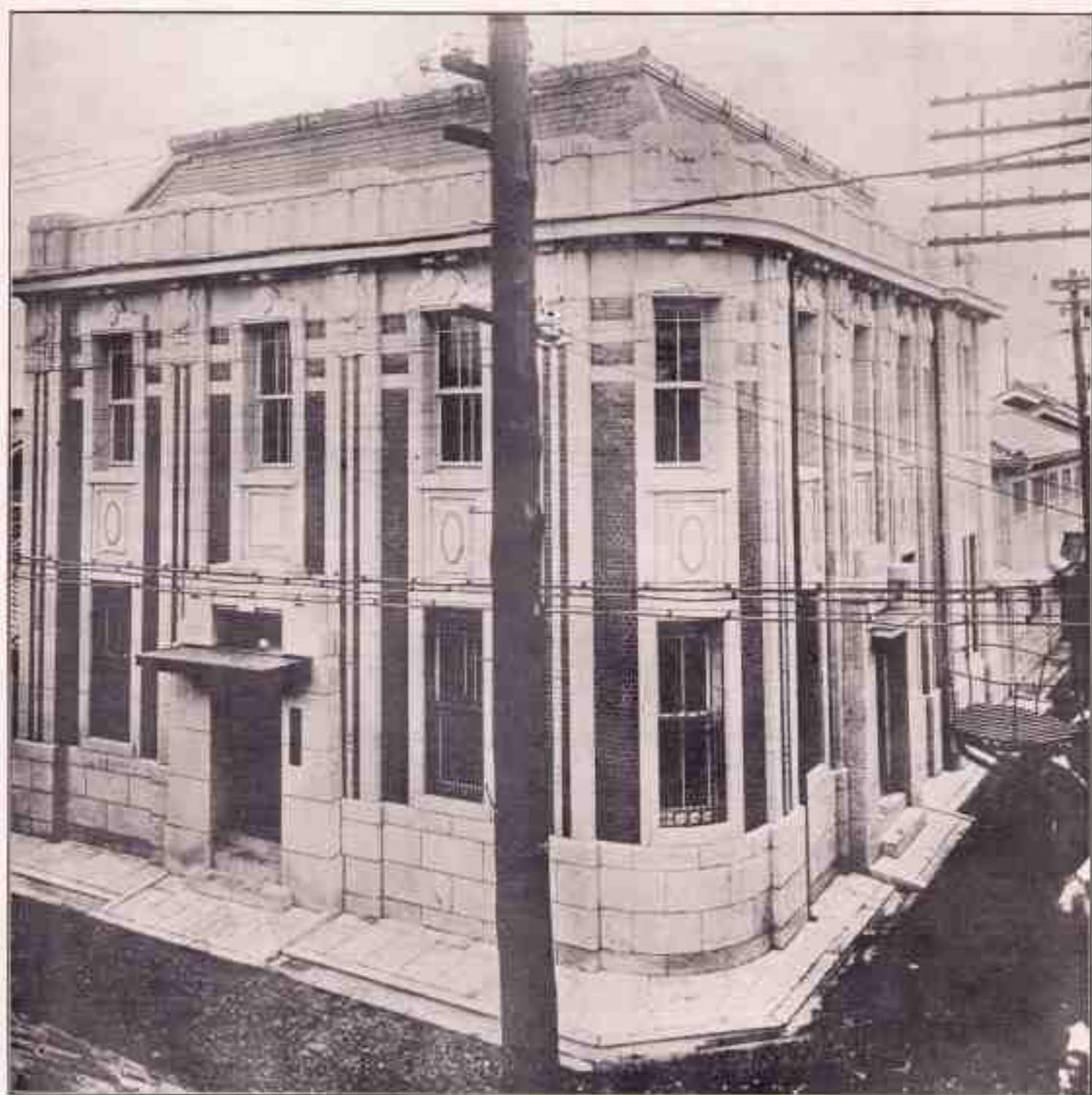
## 10

|       |          |
|-------|----------|
| 取給役頭取 | 寺田 基興 茂氏 |
| 取給役   | 寺田 元吉 氏  |
| 同     | 岸村 徳平 氏  |
| 同     | 寺田 基吉 氏  |
| 同     | 吉村 三次 郎氏 |
| 同     | 山田 京三 郎氏 |
| 雲主役   | 金納 通十 郎氏 |
| 同     | 坂保 覺二 郎氏 |
| 同     | 寺田 久治 郎氏 |



株式  
會社  
不動貯金銀行岸和田支店  
岸和田市本町 電話二〇六番





株式  
會社  
四十三銀行岸和田支店  
岸和田市魚屋町 電話七四番

1000

1000

1000

不動貯金銀行岸和田支店

株式會社不動野金銀行は明治三十五年九月創立され、同年十一月十五日より開業したものであつて、資本金壹萬圓を以つて出發した。

人も知る如く不熟貯金は我國財政提行界に幾多の経験なる所  
 錢を用した題目であつて、中にも同行の三半割置貯金並に長額  
 定期預金又は對人信用貸付け等の如き最も外金本位の類を輩出  
 した方法である。尚餘法集會制度に於ても不熟貯金が本邦の國



湖であること云々までもない。不迦野金は本店は東京市芝罘町  
本町二十九番地にあり。支店は常陸那珂市を新め全関東の地  
に集むする其數既に十ヶ店と註せられ、大正七年一月資本金  
を五拾萬圓とし續いて十年十二月堂百萬圓となり今又十二年二  
月百萬圓に増資せり。

積立金總額は、大正十年下半期に於て既に貳百四拾貳萬八千圓を算し、同十一年上半期に至つては、貳百九拾貳萬五千圓に達し、亦た預金高は大正十年下半期に於て早く壹億六百萬圓を突破し、大正十一年下半期に及んでは既に貳億圓に達んとするものがある。又富田和田支店にても現在定期積金給付契約高、百九拾萬

聞にして、陸奥高宮百五拾萬圓を算し、宮内省在高六拾五萬圓に達するの概況にて、陸奥高宮並御行昇第一位に括るのみならず、全國二千三百中に第七位に當るものである。

同行村和田に第一出張所したのは明治四十二年五月十七日、市内堀町に代理店を設置してからで、以来大馬交を行くが如き勢を以つて業務擴張せられ、大正八年五月に至りて現在の本町七十五番地に新築移轉し、營業益々順調に延き去る。大正九年二月一日より鐘に支店となしたのである。親支店長は高橋次郎氏である。今や同支店は市和田市を中心に東西二平南北五里張の間に極めて廣に夥しき資金者を有し、個々の獨特の無託當對人信用貸付を實行し、市民及び郡民は多分の便益を與へ非常なる好評を得て居る。

爲めは恒日衆余の窮乏如余の如きも岸和田支店のみにて百餘  
拾萬圓以上に達し一日の貯金契約滿に於ても壹萬圓以上のもの  
多く中には數萬圓に及ぶもの多々ありと云ふ。貸金利用を蒙る  
たる最良貯金方法として貯金若積出の有様であつて貸付の如き  
も尤も便利に出来あり而かも常に安全である。全く庶民の金融  
機關として眞に理想的のものとして新界の耳目を驚動せしむる  
の貯蓄銀行を示しつゝあるのである。

不踏野々雄行の頭取並びに重役の名をあげると、取締役頭取  
豊野元次郎氏、常務取締役前井信治氏、副牧野南郎氏、取締役  
本村雄氏、同千野梅小路定行氏、同寺坂寛行、監査役小野寺源  
次郎氏、同中鉢美明氏、同久保田照秀氏等である。

現代實業財界の大立物たる岡田武野氏は平藩閥久留里の出身で明治三十八年東京高等商業學校を卒業し直ちに實業界に身を投じて概しく實務の功を積み三十三年盤谷銀行にて不問貯金銀行

新加坡国立大学

當時の政は該小前川氏であつたが、監督の實権は牧野氏に在つた事は勿論である。牧野氏は資性圓轉現世豪も主角なく、人に接するに當る御禮勘しも城府を設けず何人も感服せしむには居られない程である。亦實業家に珍らしい思想家であつて、所謂革命に牧野氏の願望直ちに不勤貯金の歴史に外ならないのであつて、不勤貯金即ち牧野氏であること世間周知の事でもある。されば牧野氏と不勤貯金とを謂して語るのは殆んど無意味の事となる。判明すれば不勤貯金と雖も創立當時は名もなき一少貯蓄銀行であつた。そして不勤貯金は月掛け湖麗貯金と云ふ當時に於ては尠くも安魚であつた。然る方針を斷手として標榜し芝罘櫻川本郷町にあたる店舖を移へたのであるが世人孰れも冷笑冷評一人として来る。預金者はなく此經營の任にあつた小堀頭取・牧野安督以下の苦心は洵に擲血を極めたのである。而して開店後滿一年にして第二回の増込を餘積なくせしめられたのであつたが、株主の苦惱甚しく大騒動を生じて百四十名であつた株主も遂には唯だの三十餘名のみと減じた。是に於て行抽細歩の己むを再さるに至り、店員を削減して牧野氏自ら受付けもやれば小前川の爲す可き事までやつた程苦勞を嘗めたのである。此時にあつて一日牧野氏は「まずこの行尚法に大いに學ぶ所あり、雖然外交本位に出で、既自身事た其端に當つて素く相や見る可きの成績を擧げやうとするに至つた。時三十六年五月俄然都下の大新聞紙上に誤れる事實を掲載せられ一時取付的の狀態に墮ちし其妻不折に陪らんとしたが、牧野氏の盛衰其の成しきを待たが爲め則ち時で地獄まるの野尻に轉じ以候同行は年一年と鞏固に體質に發展

此期間三度同一不幸を繰返したるも牧野氏は一言専心只だ國家興隆と民衆厚生にのみと云ふ大目的と大抱負の下に同行經營の他顧念なく固くして特許氏の衷心に従ひ神の威應もありたるが眞實の大勝算を施す事が出来たのは實に偉大なる成功と云ふべきである。

## 川崎綿布株式會社

新市埠和田の露國に雄姿巍然として聳え立ち不滅の威風天を雨あて活動的な都市を表現してゐるのは我川崎綿布株式會社である。

當社は埠和田市事業界の成功者の田嶋徳太郎氏の主宰經營に



社長 田嶋徳太郎氏



常務取締役 出上吉定氏

集り常務取締役村田源太郎氏、出上吉定氏之を輔佐して抵岸に於ける一方の雄として盛名を擲せて居る。兩常務亦市の新進事業家として名を著し、結構精敏克く部下を導いて當社をして組

續的に發展せしめつゝあり。

當社は明治四十年四月資本金貳萬五千圓を以て川崎本絹合名會社として設立せられた。當時未だ婦女力織の習俗を脱せざりし時代に最新式機械を使用して科學的組織の下に運轉したのであるがこの勇敢に對して當時の機械業者からは却つて危險



専務取締役 村田徳太郎氏



工場長取締役 川崎康氏

視されたものであつた。爲に經營者田嶋徳太郎氏の苦心も一方ならぬものがあつたが眞意動々たる同氏は日夜職工と寢食を共にして之を指導し終は自ら清原に立つて雇員の團結に努めた効は驚くからず漸く其の聲を擧められ、業務及に續に就きて愈々發展の機縁に肉つて進まんとした。時平四十三三年三月全機の後に通關したのであつた。川崎氏の感情轉た激するに餘りあつたが堅忍不拔なる氏は難に當つて益々その鐵血性を發揮し天来の機才は却つて同氏を向上の一機縁に導き機も益々改善されたる理想的環境に乘じて益々その業績を進展せしめ復年ならしめて明治四十五年三月には資本金八萬圓に増額、名稱を更めて川崎合名會社となし以て第一次の發展を遂げ終つた。

兩米幾多の變遷はあつたが同氏の運籌は能く時代を洞察して機械の更を新らし、歐戰當時及び戰後事業界の極端期に際會してはその膨脹の急進實に驚異に値するものあり。その間株式組織となして遂に今日の大をなすに至つたのである。今や資本金五拾萬圓、工場三箇所、機械一千二百臺を擁し、製造年額壹百六拾萬圓に達し斯界に重鎮たるに至る。然し又東南事業界の一巨擘と謂ふべきである。

以下當社の規模及び營業狀態を摘要すれば

一、營業所 所在地

本社 埠和田市出町

一、工場所在地

第一工場 埠和田市沼町

第二工場 同

四之内工場 京濱都立埠和田大字西之内

一、敷 地 約五、〇〇〇坪

一、建 物 二、五五七坪

一、機 械

織市織機 一二三台

小車織機 一、〇三三台

一、火災保險額 四六二、五〇〇圓

一、一ヶ年製造開費 一、六〇〇、〇〇〇圓

一、貸借對開表(大正十一年六月三十日)

資 方 負債之部

一、預 金

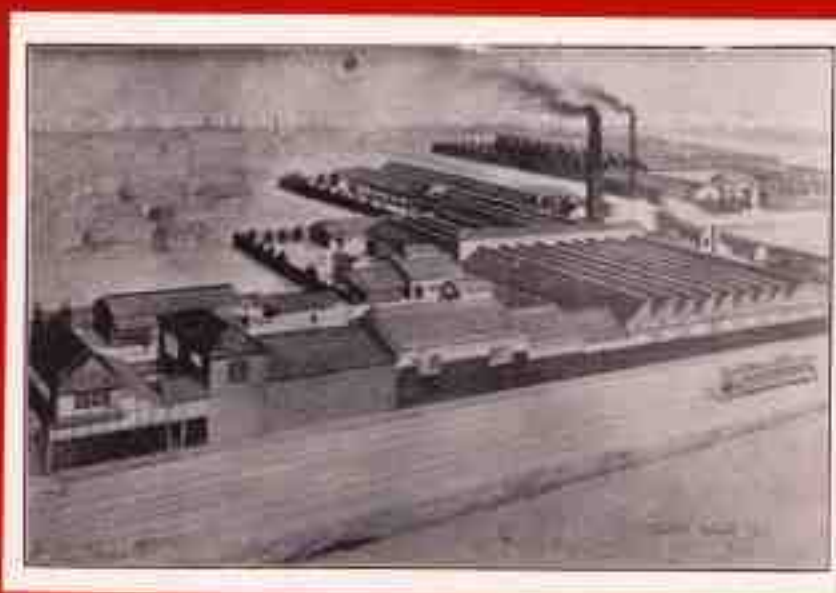
一、積 立 金

一、工平保護基金

¥1,000,000

¥1,000,000

¥1,000,000



分

# 川崎綿布株式會社

創業 明治四十年

資本金 五拾萬圓

取締役社長 川崎德太郎

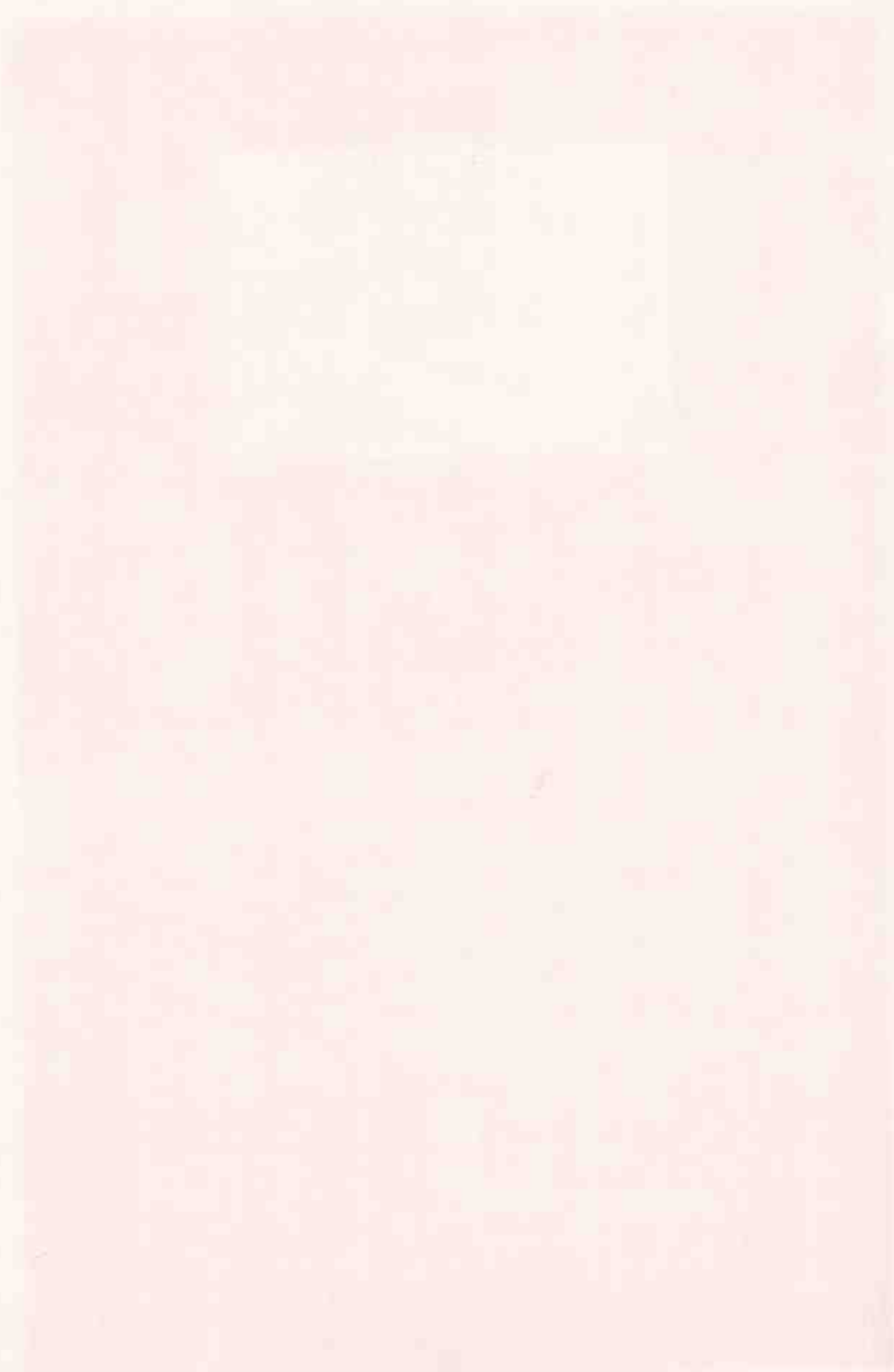
取締役 村田德太郎

同 出上定吉

同 川崎 廉

監査役 森川新太郎

同 吉川久吉





株式會社  
寺田紡績工廠

特殊品紡出專門工場

二羽鶴標

綿糸各番手

赤白標

タリ敷布糸各番手

美人標

綿毛布糸各番手

曙標

臘糸各番手

西B標

帽子糸各番手

時雨標

紬糸各番手

曉標

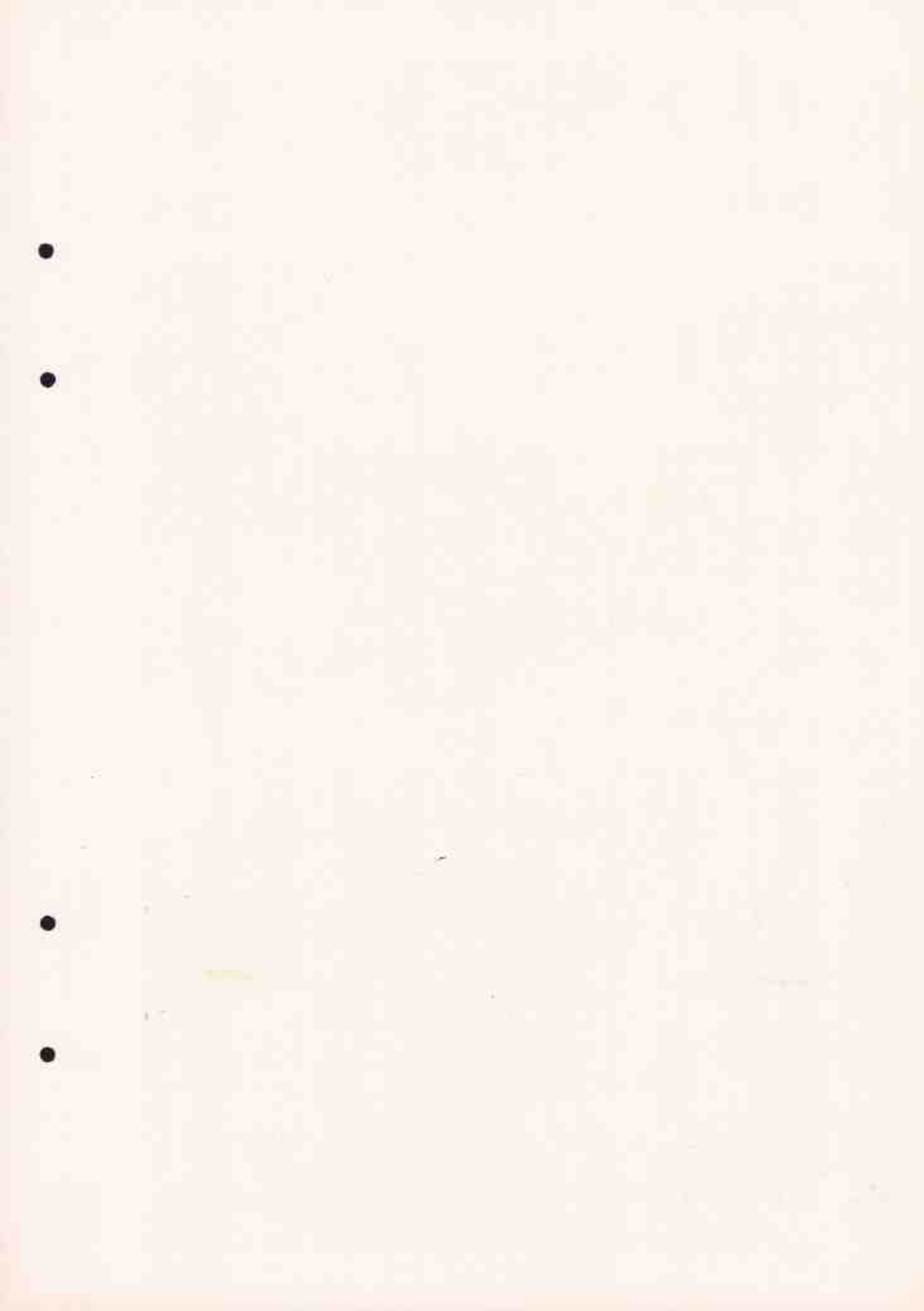
毛糸各番手

懺標

ラミー糸各番手

牧童標

撚糸各番手



[illegible]

|             |       |
|-------------|-------|
| 株主配當金(二割三歩) | 七、五〇〇 |
| 後期繰越金       | 七、五九三 |
| 一、現在重役      |       |

株式會社  
寺田紡績工廠

株式会社寺田紡績工廠は其の前身を齋藤長寺田利吉氏の獨力個人經營に據る寺田紡績工廠に發してゐる。

抑も我紡績工業は近代發展の進歩を示し、其恰好の位置と優  
廉なる努力とに依る略實味は近かに歐米の先進國を凌駕し時に  
我國產業界の覇を握へんとするに至るや、機を見るに敏なりし  
故寺田何吉氏は其壯志を明して紡績工業に委ね可く無東余議す  
る處あり。先づ敷地を選定するに當つても最も便敷に且つ専ら  
水陸の便を標準とし之が實現の手段としては照烈君は金庫を  
發表することなく、自邸に岸和田を中心と奉木、其地に且る再

箱に釣を要する事殆ど隔三ヶ月、其間一尾の魚をたに得るにあらず、蓋するは只一級の水と一尾の釣。斯くて隔なく水際を調査し終へた。其間地方人の誰一人もが之を怪しむことなく一般の釣人として目して居たに過ぎなかつた。

當時岸和田であつた岸和田藩生村大字津田、川は附近の唯一の釣場が頗る廉價を以て同氏の手に買収されたのは之かる間もな



庭家の共と氏吉利川寺英也

い事であつたが尙も地方人は之を何事にも使用するかさへ怪しんでゐた。

## 創立

總て大正二年の初春由めて企画を發表し此處に地方人を驚かしめ、同二月資本金五拾萬圓を投じて英國製ハワード式紡織機

萬八拾機を新設創めて操業を開始し専ら中番子以下の紡出に當つた、是即ち現在同社の第一工場である。

敷地の北端は調次津田川に西面は平南に望み東方の前途は國道紀伊街道に隣接して海陸の便は理想的である。

現在岸和田を中心にして附近一帯の地機織の紡績機業其他の工場ありと雖も機械の設備を要せずして所産紡績を海路に積揚げ自由石炭或は製品等の荷揚し得る位置に所在する工場は當會社を指して他に見ない、之れ一に前社長先代寺田利吉氏の綿置開到なる用意の賜である。

然れども當時の紡績産業は全く鉄鋼の城を設けず、其間不幸にして西側の戦雲に過し加ふるに外部の阻迫は屢々經營難に陥らしめたが、此の牢閉たる意志と熱誠なる努力とはよく之を支持し漸々好成績を収め漸々東洋北洋間の機織業の爲に製糸の直道を實行する事見るべきもの多かつた。

## 組織の變更

元來岸州一帯は昔時から商業旺盛の地で大小の工場は年を過ふて数出し爲に製糸の需要は必然的に増えるに至つた。

此狀態に際し斯里の需要に堪ふ可く益々擴張を請ひ大正五年九月に個人經營を株式組織に變更し、以て益々堅實なる基礎を固めるに至つた、其當時の發起人は左の通りである。

創立者 利吉 寺田 信三 寺田慶太郎  
 寺田久治郎 寺田 健三 寺田善二郎  
 森本文五郎

の諸氏で尙組織變更當時の重役は

取締役社長 寺田 利吉

取締役 寺田 信三  
 同 寺田久治郎  
 同 寺田善二郎  
 監査役 寺田慶太郎  
 同 寺田 健三

の諸氏であつた。

斯くて有史以來未曾有の歐洲大恐慌は各國の人心及産業に甚大の影響を及ぼし、世界の經濟界は眞に百花偃蹇の大恐慌を呈し所謂商業界の黄金時代を出現し漸々社運も益々隆盛に向ひ直に



工務部長寺田文五郎氏

第一番の秋、大正七年十二月社長寺田利吉氏不幸病歿の候す處となり遂に逝去されるに至つたのは當社の爲め非常なる悲しみであつた。

社運に於てか當社取締役社長寺田信三氏父君の機を受け同時に獨り以て取締役社長に就任した。

同氏は先代利吉氏にも倣ふ財界の豪材にして務め岸和田財界に於ける規模かと注目されてゐるだけ就任後は一意専心前社長の意志を尊重踏襲するのみならず一機獨特の經營體を發揮し、社運は益々隆盛を見、漸々な好成績と共に益々鞏固なる基礎を作するに至つた。

されば有史以来の資金増殖時代の人びととして起つた平和東  
復後の復興の能み豁然張其の様に達し得るからざる状態  
の財界に達者し事業界は未だ開拓の域に當つて不熟として奮動  
だもしなかつたのも此の結果である。

## 増資擴張

斯くて大正九年一月資本金九百萬圓を増資して壹百萬圓とし  
内部の増資を計り工場・倉庫・住宅の設備増殖を断行し併  
全職工を勞務制度に改めた。且つ社生数は一百員、現に庶務倉  
に收容する工友六百餘名、男工一百餘名外に夫婦職工は又それ  
／＼設備を更にする社宅に何れも收容しつゝあり。

一方工場の方面は製糖・研究を重ね製品改良を加へ機業室と  
相連絡して金・特種品専門工場を新に増設すべく特種品専門機  
械一萬餘を海外に注文して大正十年六月第二工場を起工し同十  
一年一月竣工し糖糸結出の操業を開始した同年十一月頃よりは  
更に羊毛・絹糸等をも結出して新原料に提供するに至つた。

調査官等としては少なからぬ賛成を拂つて機業室の便を謀り  
つゝある範圍上一般の財用も日を延ぶて次第に多きを加へて来  
た。

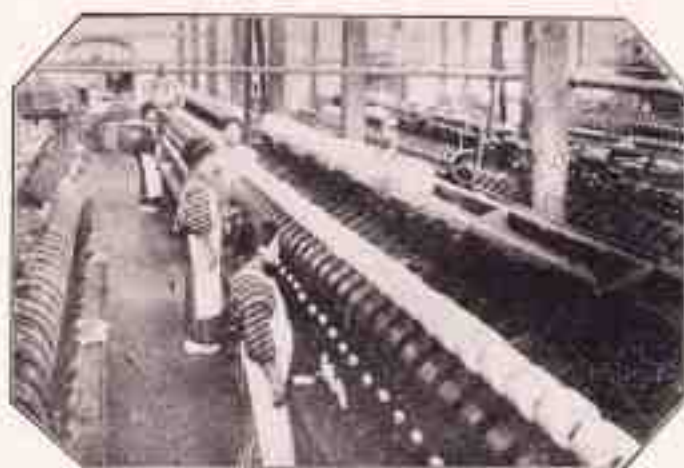
## 英斷的試み

尙技術研究のみに充當する目的を以て又々紡機堂萬餘を海外  
に注文し試験工場として第三工場を新設すべく大正十二年二月  
起工目下建築中にあるが、之等は時局に處する困難なる準備的  
設備で、世界的産業が唯一に能率の増進と技術的訓練に依りて  
のみ萬國共通市場に持ちこたされてゐる。今日技術的研究と

職工の訓練に資する此の試みは取るべき道の最も妥當なるも  
ので、此の舉は當社の支那であり、社長寺田利吉氏の非凡なる  
經營眼の發露でなければならぬ。

## 工場と製品

以上の如く構築された工場は舊第一萬圓に都府郡四千五百圓  
の寄付を有し設備は既に銀行計運轉しつゝあるもの二萬八千餘



第一の紡工廠工機特川寺

再は目下海外に注文にして總て到着し現在建築中の第三工場  
の竣工と共に開付らるべきもの一萬餘、之等を分する時は二萬  
八千餘を算すべく従つて此の生産能力は年一萬一千六百圓の多  
額による。而して其の主なる販路は

近畿地方、四國、九州、關東、支那

の方面で、製品の種類としては二十手以下太番子及幾多等を  
専断してゐる。

品質の優良は世評に定評ある處で、殊に特種品たる羅布の如  
きは最近の試みであるにも拘らず品質の評判と共に急進なる販  
路の擴大は頗る異數の結果を示してゐる。

向之を實踐の土より見れば、大正八年十一月二十日堺市主催  
關西物産博覽會並に大正十一年七月十日東京平和博覽會に於て  
共に銀牌を受領してゐる。

## 重役及其他幹部と職工

(大正十二年四月現在)

|       |       |
|-------|-------|
| 取締役社長 | 寺田利吉  |
| 取締役   | 寺田久治郎 |
| 同     | 寺田共三郎 |
| 監査役   | 寺田慶太郎 |
| 同     | 寺田三   |

|      |       |
|------|-------|
| 工場長  | 森本文五郎 |
| 副工場長 | 秋三郎   |
| 工務主任 | 金太郎   |

以上の重役と直接工場の關係に關係してゐる幹部諸氏の下に  
それ／＼分機作業に從事してゐる職工の数は男工三千二百女工八  
百五十計千一餘名を算してゐる。

## 獨特の勞資協調策と職工待遇

各種産業の發達に伴ふ起つた重大なる問題に勞資間の衝突  
である。



REGISTERED TRADEMARK



海軍省指定工場

# 関西製綱株式会社

## 営業品目

|            |        |
|------------|--------|
| マニラロープ     | 鋼線     |
| ワイヤロープ     | 鐵線     |
| タロープ       | ヘルト用鋼線 |
| トールトワイン    | スホク用鋼線 |
| ヴァインダイトワイン | 白麻細    |

|       |       |     |       |
|-------|-------|-----|-------|
| 取締役社長 | 寺田元之助 | 支配人 | 寺田榮一  |
| 常務取締役 | 藥師禮松  | 監査役 | 岡田惣吉  |
| 取締役   | 寺田松三郎 |     | 十場吉太郎 |
|       | 久住政七  |     | 岡本康太郎 |
|       | 中川英彦  | 相談役 | 寺田甚興茂 |
|       | 笹村竹造  |     | 寺田元吉  |



|          |              |
|----------|--------------|
| 契約高      | 1,000,000.00 |
| 内 詳      |              |
| 工場建物     | 1,900,000.00 |
| 事務所其附属建物 | 110,000.00   |

## 圖表 業績成績

一、生産 量(一箇年) 一萬二千七百七十個以上  
大正十二年四月現在

### 貸方

|             |              |
|-------------|--------------|
| 株 金         | 1,000,000.00 |
| 法定積立金       | 150,000.00   |
| 職工扶助資金      | 20,000.00    |
| 社員恩給資金      | 10,000.00    |
| 別當借入金       | 200,000.00   |
| 支拂手形        | 10,000.00    |
| 職工共済組合基金    | 20,000.00    |
| 預 金         | 10,000.00    |
| 未納金         | 10,000.00    |
| 前期繰越金及当期利益金 | 20,000.00    |
| 合 計         | 1,530,000.00 |
| 借方 資産之部     |              |
| 地 州         | 10,000.00    |
| 家 屋         | 10,000.00    |
| 諸 機 械       | 10,000.00    |
| 什 器         | 10,000.00    |

|           |              |
|-----------|--------------|
| 消 火 器     | 10,000.00    |
| 有 價 證 券   | 100,000.00   |
| 受取手形      | 100,000.00   |
| 聯合會信託金    | 10,000.00    |
| 原動工機什物品類品 | 10,000.00    |
| 製糸費掛金     | 10,000.00    |
| 預 金       | 10,000.00    |
| 準備物品      | 10,000.00    |
| 落 後 利 金   | 10,000.00    |
| 寄附金積立     | 10,000.00    |
| 未納過保掛料    | 10,000.00    |
| 總 局 積 立   | 10,000.00    |
| 賣店積立      | 10,000.00    |
| 金 銀 有 價   | 10,000.00    |
| 合 計       | 1,530,000.00 |

### 一、損益計算

|                        |  |
|------------------------|--|
| 總發金四拾五萬壹千五百九拾八圓六拾七錢六厘  |  |
| 總損金參拾五萬六千九百八拾八圓八錢      |  |
| 差引當期利益金九萬四千四百八拾圓四拾九錢六厘 |  |
| 前期繰越金壹萬貳千八百四拾圓五錢貳厘     |  |
| 合計金七萬七千貳百八拾貳圓八拾四錢八厘    |  |
| 内金當配額也                 |  |
| 常期純益金                  |  |
| 一、此配當計算                |  |
| 一金 五 千 圓 也             |  |
| 法定積立金                  |  |

|                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| 一、金 參 千 圓 也                    | 賞 與 金     |
| 一金 五 萬 圓 也(年當額)                | 配 當 金     |
| 一金 九 千 貳 百 八 拾 貳 圓 五 拾 四 錢 八 厘 | 債 權 繰 越 金 |
| 以 上 (第二千四百零七號公告に據る)            |           |

## 關西製綱株式會社

當會社は明治四十五年四月資本金拾五萬圓を以て創設せるものであつて、根幹附設轉役榮徳松氏經營、元以製綱所を實



關西製綱株式會社全景

秋、マニチ廠工場を建設し大正二年二月事業を開始した以來大正三年四年六年の三次擴張工事を經て大正六年六拾萬圓に増資

昭和四年九月別にワイヤ工場を建設し大正七年十月完成、直ちに事業を開始した大正九年三月百五十萬圓に増資しマニラ麻工場の第四次増資完成及び大正十年より工を起したる麻綱工場の完成を経て今日に至つた。

本社は本邦三大製鋼會社の一つにして其歴史は既に世界的定評あり現今海軍省指定工場たるのみならず製品は全國有数の各



社長 寺田元之助氏



専務取締役 齋藤徳松氏

造船所、鐵山、船越、船越及船越店に輸入販売し且つ諸般、支那、印度、南洋等の各方面に輸出して常に注文發達の盛況を呈し財界の不振に拘はらず當社のみは盛況況を維持してゐる。

當社は相談役に元老寺田西園寺氏及び寺田元吉氏、社長に財界の重鎮寺田元之助氏を置き且總務部長なる役職を有する常務取締役齋藤徳松氏専ら業務を主宰し船越鐵山の支配人寺田榮一氏

之を統括して鋭意活動其日の觀を承め今日の大を爲すに至つたのは又工業界の一個傑たるを失はない。

今尤に營業の盛況を記して當社基礎の鞏固、内容の堅實、營業の發展を紹介すれば

一、營業の概況

一般財界の不振に鑑み生産率の増進、營業費の節約、製品の改良に専心努力し以て販路の擴張、優良品廉價の宣傳に意を注ぎたる結果ワイヤ製品に就ては海軍省指定の優等品を認められ最近幾艘及び海軍省指定の増進し而して定評あるヘルト用鋼線及びスチール用鋼線にありては製作技術の練磨と相



支那人 寺田榮一氏

併て東洋唯一の稱を得、注文發達一時注文網の好況を呈した事もある。

マニラ製品に就ては既に有する販路、中國、四國、九州、北陸、北海道の諸國たる地盤に供給を努むる傍、朝鮮、南滿洲、滿洲國、南洋方面に新市場を開拓し營業の成績を収めて居る。

海軍省指定品に對しては最近軍需に依る多少の減少を考案したるに拘らず引續き従来の増す多大の用命に接し而して納品に對する製作技術の向上を認められ一躍海軍省指定品製造工場たるの光榮を荷ふるに至つた。

一、工場所在地

本社工場六主にマニラ鐵山和田市北町  
分工場ワイヤロープ麻生郡村大字津田

一、廠地

本社工場 一、八二二坪  
分工場 八、〇三三坪

一、設備

本社工場 一、一四六坪  
分工場 一、八七八坪

一、機械

一、使用馬力 六五馬力  
一、製造能力 約三百臺

一、製鋼能力

海軍省指定品 五、〇〇〇、〇〇〇封底  
トコイルワイヤ 五、〇〇〇、〇〇〇封底  
ワイヤロープ 三、〇〇〇、〇〇〇噸

一、原料

主なる供給先  
海軍省各工廠、諸般、内務省、三菱鐵道、鐵道省、郵政省、朝鮮總督府及海島、大連等官民諸工場

一、出張所

北海道出張所主任 山下 賢三氏  
北陸道出張所主任 上 野 三氏  
大坂出張所主任 大坂市西區藤町四丁目  
東京出張所 東京市京橋區本提町六丁目

一、貸借對照表(自大正十一年六月一日至同一年十一月三十日)

總務部 會内



# 岸和田紡績株式會社

資本金 九百七拾五萬圓

儲積金 壹千貳拾萬圓

總額 拾六萬五拾萬圓

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 | 全 | 監 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 監 | 社 |
| 金 | 寺 | 竹 | 向 | 小 | 間 | 寺 | 岸 | 寺 | 寺 |
| 納 | 原 | 井 | 田 | 田 | 村 | 田 | 田 | 田 | 田 |
| 源 | 友 | 宗 | 利 | 二 | 基 | 基 | 基 | 基 | 基 |
| 十 | 見 | 三 | 重 | 三 | 基 | 基 | 基 | 基 | 基 |
| 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 吉 | 平 | 吉 | 茂 | 茂 |





貸方 資産之部

|         |               |
|---------|---------------|
| 未納込資本金  | 2,000,000.00  |
| 地 用     | 1,000,000.00  |
| 建 物     | 1,000,000.00  |
| 該 備 具   | 1,000,000.00  |
| 前 定 家 具 | 1,000,000.00  |
| 什 器     | 1,000,000.00  |
| 蘇杭工場建設費 | 1,000,000.00  |
| 炭 持 口 座 | 1,000,000.00  |
| 原 料     | 1,000,000.00  |
| 仕 掛 品   | 1,000,000.00  |
| 製 品     | 1,000,000.00  |
| 買 掛 金   | 1,000,000.00  |
| 受 取 手 形 | 1,000,000.00  |
| 委 託 品   | 1,000,000.00  |
| 貯 藏 物 品 | 1,000,000.00  |
| 假 借 金   | 1,000,000.00  |
| 合 計     | 11,000,000.00 |

貸方 負債之部

|           |              |
|-----------|--------------|
| 資 本 金     | 1,000,000.00 |
| 積 立 金     | 1,000,000.00 |
| 前 期 繰 越 金 | 1,000,000.00 |
| 支 拂 手 形   | 1,000,000.00 |
| 假 受 金     | 1,000,000.00 |
| 未 償 金     | 1,000,000.00 |

銀行勘定

|               |               |
|---------------|---------------|
| 未納配當金         | 1,000,000.00  |
| 對 引 手 形       | 1,000,000.00  |
| 借 入 金         | 1,000,000.00  |
| 職工福利基金(顧問氏個人) | 1,000,000.00  |
| 當 期 利 益 金     | 1,000,000.00  |
| 合 計           | 11,000,000.00 |
| 一、利益金分配       | 1,000,000.00  |
| 當 期 利 益 金     | 1,000,000.00  |
| 前 期 繰 越 金     | 1,000,000.00  |
| 合 計           | 11,000,000.00 |
| 一、債 務         | 1,000,000.00  |
| 積 立 金         | 1,000,000.00  |
| 債 權 金         | 1,000,000.00  |
| 配 當 金(年々割當金)  | 1,000,000.00  |
| 油鹽用品損失補填金     | 1,000,000.00  |
| 後 期 繰 越 金     | 1,000,000.00  |
| 以 上           | 1,000,000.00  |

一、債 務

|       |           |
|-------|-----------|
| 取締役社長 | 寺田元之助氏    |
| 常務取締役 | 鹽田 雄 祐氏   |
| 取締役   | 寺田 敏 三 雄氏 |
| 同     | 久 住 政 七 氏 |
| 同     | 中 川 英 漢 氏 |
| 同     | 斐 村 竹 造 氏 |
| 支配人   | 寺 田 敏 一 氏 |

二、事 務 管 掌

|            |             |
|------------|-------------|
| 監 査 役      | 岡 田 啓 吉 氏   |
| 同          | 十 堀 吉 太 郎 氏 |
| 同          | 岡 本 謙 太 郎 氏 |
| 相 談 役      | 寺 田 英 典 氏   |
| 同          | 寺 田 元 吉 氏   |
| 支 配 人      | 寺 田 敏 一 氏   |
| 技 師 長      | 増 田 盛 道 氏   |
| ワイヤ工場主任工學士 | 長 谷 川 傳 雄 氏 |
| マッパ工場主任    | 林 良 三 氏     |
| 同工場工務主任    | 横 山 信 次 郎 氏 |
| 世務主任       | 三 木 眞 藏 氏   |
| 販賣主任       | 池 田 良 之 助 氏 |
| 用度主任       | 奥 田 貞 七 氏   |
| 會計主任       | 經 齊 繁 太 郎 氏 |

岸和田紡績株式會社

我紡績界の発展軍として名あり東洋に雄飛するものは我岸和田紡績株式會社である。

當社が岸和田市の一角に蟠居して期界を俯瞰し遠く海外に眼を馳せて居るのは誠に壯快の極みと云ふべきである。岸和田の元老寺田英典氏が畢生の心血を盡き磨き不撓の努力に由り築き上げたる當社の事業は實業界の模範として永々に語り傳ふ

べき増資準備である。

當社の臨時は今年より二十年間明治二十五年十一月寺田甚助氏氏外二十四名の連署を出願したるに發し二十七年一月營業を開始したるものにして當時資本金は僅かに金貳拾五萬圓に過ぎ



和歌山紡績株式會社事務所支店



社長 寺田甚助氏

ぎなかつたのである。

額米左の如き増資を経て今や資本金は九百六拾萬圓となつて實際上の資本金は千萬圓と許せらるゝに至つた。

一、明治二十八年七月 五拾萬圓に増資

一、同年 九月 第二工場設置出願

一、同 三十一年七月 百萬圓に増資

一、明治三十三年七月 六拾萬圓に減資

一、同 三十六年二月 集株紡績株式會社の工場を買収増資



支店長 寺田甚青氏



工務部長 關二氏



工場長 岡田安太郎氏

増と命名す

一、同 三十七年四月 泉州紡績株式會社より譲受たる改印

集株商標登録を受ける

一、同 年五月 清國に於て改印商標權の確立を上海總領事

館に出願す

一、明治三十八年三月 壹百貳拾萬圓に増資、第三工場設立出願

一、同 四十一年十一月 改印商標登録を受ける

一、同 四十二年二月 第四工場設立出願、野村分工場と命名

者

一、同 四十五年七月 貳百四拾萬圓に増資、第五工場設立出願、奉本分工場と命名

一、大正六年七月 四百八拾萬圓に増資

一、同 九年五月 九百六拾萬圓に増資

之を以て觀れば、當社は三十年間五科全備として穩底的に固守したる所謂堅實主義に由り致々として積まれたる資本、即ち信託積立に依る無形の財力が自ずから無敵的に斯くの如き膨張増大を來したるものにして、寺田氏のマフットとする「新電力社」によると斯の膨張努力の補助に外ならないのである。併しながら雖も、船日の昇るが如き當社にも減資整理を要したる時代ある事を思へば當局者の苦心は其間に如何に慘憺たるものがあつたであらう。

頭みて三十年の過去を回顧すれば又是れ血涙を以て綴られたる一巻の苦闘史と謂つべきであらう。寺田君併て鍾鐵齋氏を共にして曰く「商賈人が一年も先の利益を賣つてどうする、それは相繼の仕事をやわい」と一喝、流石の武雄氏も返す辭が無かつたと云ふに徴しても斯の面目躍如たるものあり。吾輩に就つて堪はれたる自信の根柢が窺はれる。宜なるかな、大正九年財界大恐慌に際して先約を拂したる斯のを見れば果敢事實に堪はれ斯界の混亂は畢竟先約前内に依る機軸と稱して誤りはな

いのであつた、此の時に當り頗り粗然として當社は何等の災害を蒙らず偉大なる平凡の眞理を示して以て我財界に前例の一新を加へたのであつた。

今や當社の資産は極端に信用せられて如何なる商會社も追隨するものなき常態なる位置に置かれ右の如く動かない。

今試みに當社の資産状態が如何に堅實であり、如何に實際の價值と秤量があるかを極めて簡単に檢して見よう。

# 一、地 所

八二〇七九坪

即ち一坪平均は 武藏六拾八錢強となつてゐる。

同社は本社、工場、野村工場、埠工場共、市街地であつて只春木工場のみ市街に遠ざかつてゐるだけであるから少なくとも一坪平均七八圓の價值はあるのである。

# 一、建 物

四四五、九三三坪

即ち一坪平均は 拾四圓五拾六錢となる、之れとても平均一坪少く見積つて五十五圓拾圓の價值がある。

# 一、機 械

五、六三、二七一

# 精 紡 機

一五〇、〇一四

即ち一錠平均（最機は假に二錠を以て十錠に換算す）を四圓拾八錢強となつて居る之れも一錠價值は少なくも四圓拾圓の價值はあらう。

一、方式火災保險高を見ても大凡その内容を窺ふ事が出来るであらう。

一、建物機械器具什器 此合計百五萬七千圓に對し 八百多

昭和四年度 第五編 金融と工業界

拾萬圓の保險を付して居る。

以て一錠を推知するに足るう。

以下當社の規模及び營業範圍を紹介する。

# 一、本社所在地

一、工場所在地

本社工場 岸和田市並松町

野村分工場 岸和田市下野町

春木分工場 泉郡郡北勢守村大字春木

埠工場 埠市町

# 一、所有地所

八二〇七九坪

# 一、建 物

四四五、九三三坪

# 一、機 械

五、六三、二七一

一、火災保險契約高

總物機械及び棉花に對し壹千五拾五萬圓

一、一ヶ年製造價格 約貳千萬圓

# 一、貸 方 負 債 之 部

一、積 立 金 七、〇〇〇、〇〇〇

一、積 立 金 八、〇〇〇、〇〇〇

一、配當準備積立金 四、〇〇〇、〇〇〇

一、大災害上保險積立金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、従業員保險基金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、職工保險基金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、社長寄附職工保險基金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、未償還當金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、預 金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、未 償 還 金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、未 償 還 金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、長期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、長期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、長期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、長期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、未償還當金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、地 所 一、〇〇〇、〇〇〇

一、家 屋 一、〇〇〇、〇〇〇

一、機 械 一、〇〇〇、〇〇〇

一、消 火 具 一、〇〇〇、〇〇〇

一、什 器 一、〇〇〇、〇〇〇

一、假 設 金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、有 價 證 券 一、〇〇〇、〇〇〇

一、受取手形 一、〇〇〇、〇〇〇

一、未経過保險料 一、〇〇〇、〇〇〇

一、原租現在高 一、〇〇〇、〇〇〇

一、製糸線布落組現在高 一、〇〇〇、〇〇〇

一、仕掛物現在高 一、〇〇〇、〇〇〇

一、石炭、用皮品 一、〇〇〇、〇〇〇

一、贈 品 贈 送 一、〇〇〇、〇〇〇

一、製絲棉布落組費掛金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、銀行預金 一、〇〇〇、〇〇〇

一、現 金 一、〇〇〇、〇〇〇

合 計

一、損益計算書(自大正十一年一月一日至同年六月三十日)

収入之部

|             |          |
|-------------|----------|
| 一、製絲費上高     | △五五、九三〇円 |
| 一、繰布費上高     | 四九、六四四円  |
| 一、用糸等繰上高    | 一三、三三〇円  |
| 一、仕掛物繰上高    | 一三、三三〇円  |
| 一、利息、金買棉花等費 | △六、四八〇円  |
| 一、割込金及び他收入  | 一〇、四三〇円  |
| 合 計         | 一〇、四三〇円  |

支出之部

|            |         |
|------------|---------|
| 一、原絲使用高    | 四〇、六三〇円 |
| 一、繰布使用高    | 二五、四四〇円 |
| 一、仕掛物前期繰上金 | 二六、六六六円 |
| 一、費 常 費    | 一三、三三〇円 |
| 一、工 場 費    | 二六、四四〇円 |
| 一、諸 費 金    | 四、六六六円  |
| 一、火災保険料    | 一、六六六円  |
| 合 計        | 一三、三三〇円 |

繰 引

|               |            |
|---------------|------------|
| 内固定資本有価証券減損償却 | 一〇〇,〇〇〇.〇〇 |
| 繰引金           | 一、六六六円     |

一、利益金分配

|         |         |
|---------|---------|
| 一、当期利益金 | 二、六六六円  |
| 一、前期繰上金 | 一三、三三〇円 |
| 合 計     | 一六、六六六円 |

内

一、積 立 金

一、株主配當金(年六割)

(普通配當年二割、特別配當年三割)

一、後期繰上金

一、現在重役

|       |          |
|-------|----------|
| 社 長   | 寺田 甚典 氏  |
| 取 締 役 | 寺田 元吉 氏  |
| 同     | 岸 村 徳平 氏 |
| 監 査 役 | 金 納 謙十 氏 |
| 同     | 竹 原 友三 氏 |

一、事 務 分 掌

|           |           |
|-----------|-----------|
| 一、支 配 人   | 寺田 元吉 氏   |
| 一、副 支 配 人 | 岸 井 重 郎 氏 |
| 一、技 術 長   | 關 二 郎 氏   |
| 一、本社工場主任  | 岡 田 安太 氏  |
| 一、増分工場主任  | 辻 祐太 氏    |
| 一、野村分工場主任 | 湯 定 祐 氏   |
| 一、春本分工場主任 | 杉 本 徳 松 氏 |

# 和泉紡績株式會社

由來泉府の地、我國機械業の嚆矢たる歴史を有し、泉府千機百  
年間、醸成されたる勢は明治大正の變代に至りて勃然たる雄龍  
を促し、兎も我輩紡績業の進歩たるの觀を呈したるは又疑なきに

あらや、其間にありて泉府の一角改本の地に巨龍として舞え立  
ち本府の活動を續くるは紡績界の重鎮我和泉紡績株式會社であ  
る。

我紡績界の元老寺田房藏氏、岸和田財界の巨擘寺野秀一氏等  
の主唱により明治四十五年五月資本金壹百五十萬圓を以て本社



和泉紡績株式會社の全景

は設立されたのである。然るに幾何もなく、寺田大正の事あ  
り、財界は沈滞の極に至つたが當社は猶ほ白旗を掲げて待つ事な  
あり、大正御大典の慶儀に迎ひて人心を一新し、新機を興  
起せんとせし時、偶々勃發したる歐洲戰亂の禍を藉として  
財界は沈滞として、是に銀されつゝ、輕視した其の間當社經營者



# 和泉紡績株式會社

創業 明治四十五年五月  
資本金 六百萬圓

|       |       |
|-------|-------|
| 取締役社長 | 谷口房藏  |
| 業務取締役 | 宇野亮一  |
| 取締役   | 白井治平  |
| 同     | 山本藤兵衛 |
| 同     | 中原辰之助 |
| 同     | 中原久次郎 |
| 監査役   | 濱口龜太郎 |
| 同     | 田附政次郎 |
| 同     | 我野喜太郎 |



の苦心は豫想の外であつたが隠忍の効は空しく中絶の途程は却つて我が財界に取りては弊害と變じ海運界を悩まして後



中野 秀一 氏  
取組補佐



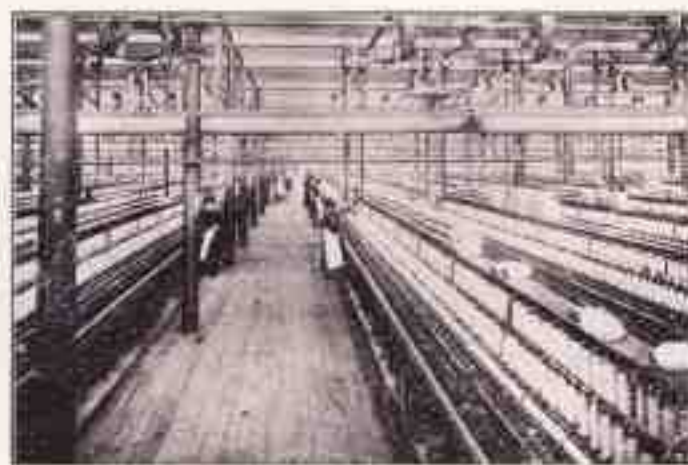
中 原 久 次 郎 氏  
工務部長補佐



白 井 海 平 氏  
取組補佐

品に次ぎ我が財界も然然たる勢を得、内外の信用は潤滑として  
展開し茲に我が財界のみ盛期を過り常軌も豫想以上の効果を収  
め得て其後の全固、繁栄の堅實、製品改良は業界の信用を

昭和製鐵史 第九章 金融と工業界



和 鋼 製 鐵 工 場 の 一 部



森 内 幸 藏 氏  
専務部長

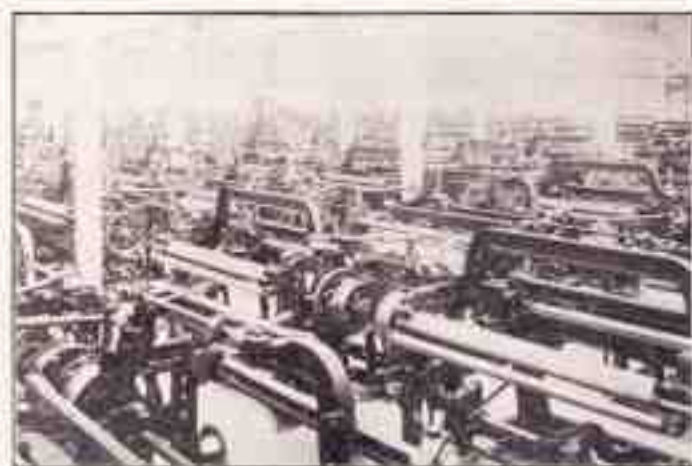
昂める事となつた。然して需給不均衡に陥つた現狀に甘んずる  
事能はざる狀勢となり即ち大正六年八月参百萬圓に増資し生産  
能力の増進擴張を圖つて茲々向土發展の域に進んだ。

歐風の水機は輸出貿易の旺盛を促し大正七八年に至つて綿糸  
價格は昂騰に次ぎに品物を以てし停まるところを知らず其に照  
準の資金時代を實現したのである。此の間に進んで當紅京都  
は時勢に順應して積極的に巨利を得ると同時に他は此外分

配率を増加せず内は日々に基礎の全固、實業の堅實を圖り機械  
の精良製品の優越、従業員の厚遇に努め専ら無事増進、業員の  
向上に意を盡き、外は積極的販賣の擴張伸張を策して事とし  
て抜くべからざる社運を固め計つたのである。

大正九年に入るや世人は財界の眩耀に酔ひて来るや其災禍に  
想もせず噴火以上の巨害に目を忘れて居た時、突如として怪風  
惡浪は湧きかゝつた大恐慌は遂に襲來したのである。此の時に  
當り當世は遂に「内部の光復を待つて居たのであるから敢て  
難かす豫定の積極的方策に基き大正九年五月政變として増資を  
決行し資本金は一億六百萬圓となし堂々として一流紡績の真に  
到したのである。

國家我紡績界は順々増資に導かれたが血染主義の内に能く堅



和 鋼 製 鐵 工 場 の 一 部



一金五萬圓(五千七百九十九圓九錢)

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

一、利益配當金

一、金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

一、利益配當金

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

一、利益配當金

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

一、利益配當金

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

一、利益配當金

内 訳

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

金 五 萬 圓

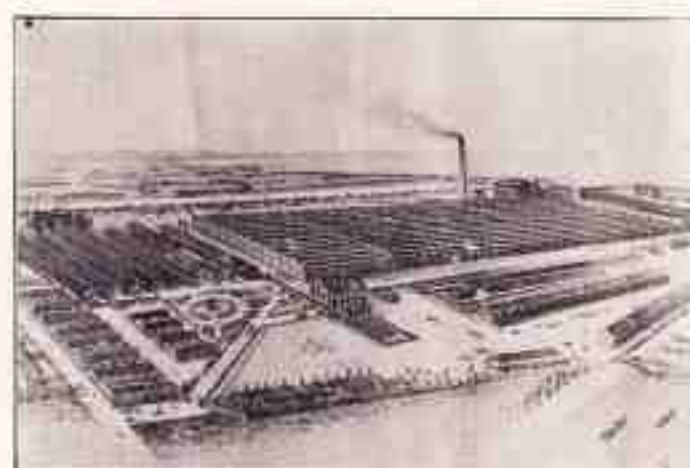
金九拾九萬五千七百九十九圓九錢

金引金八拾八萬五千九百九十九圓九錢

# 大阪紡績株式會社

## 創立と位置

當社は正八年九月、資本金壹百萬圓を以て創立し、其事業は二萬六千を織し、最良の最良田の綿に位置を占め、最新機械的織造と提提とを以備してある紡績界の雄雄である。



大阪紡績株式會社

工務長取締役 中 原 久 次 郎氏  
工務主任 戸 上 實 藏氏  
同 明 原 有 信氏

當時の發起人は、京阪地方の老門實業家として知られてゐる寺田利吉氏を始め、同郡員福町の徳谷吉次郎、同町寺田長三郎、同郡山田上村信吉氏、同郡信達村社屋藏、同村玉田勇の諸氏で、これに對して同地方名望家の贊同を得て設立したものである。爾來當事者の堅忍不拔の精神に基ふるに提提者の協賛と相俟



中 原 久 次 郎氏



中 原 久 次 郎氏

## 推移と現状

つて克く提提の風流に倣ひ、彼々として前進の大成を計つた。

間て創立後、當時財界の冷嘲と共に世界的恐慌に遭遇したのであるが、當事者の此際にも揺るがず、提提の事業を維持したので、その難境を切り抜け、漸次その業績の好轉を圖つた結果、今や財界の此後、その極を越えんとするの勢、提提の努力と協賛の功は提

實に美果を収むるの時期に到達してゐる。

相繼いで新設紡績會社の資力を着るの間に立つて前例として  
鋭氣を示し、新機を旺盛にしつゝあるは、若し中心經營者  
たる社長寺田利吉氏の堅實穩健の性格と偉大なる經濟眼を其訓



大坂紡績工場の一

とする獨特の經營眼の感らしむる處であり創立當初に於て優に  
能に看るが如き流行投機的企業と異を呈し、數期間の不況も  
何等感せず。支拂の大成を期すべく持久的企业觀念に基いて  
投資した關係者諸氏の着眼と協力との反映でなければならな  
い。

### ◆將來期して有望

創立日前後、前途多事なきを保せずとも、當業者不撓の努力

と益々堅實なる經營眼とは、過去數期間放て利益の配當を行は  
ず専ら蓄心してゐた内容の光質と併つて明かに財界の恢復を期  
して雄圖せんとする態度は、却つて一時をつくらふ類の不用意  
なる則業者に止して如何に心強いかは言ふまでもなく、斯界の形  
勢と最近當業者の眼とに照みて、當世將來の有望さは新設會  
社中の異數であるべきだ。

更に當社は現在總額二萬六千三百の工場に對して其敷地は實  
に二萬五千坪を一劃に購する計畫は、今後容易に得べからざる工



大坂紡績工場の一

場敷地上最も有利なる條件で社長寺田利吉氏の自ら自慢とする  
處、將來機に應じて増資擴張し得る準備として斯くの如き異數  
なる川原は斯業界の將來大に注目し得るものである。

### ◆規模と營業狀態

今當社の規模と最近の營業狀態を表示すれば左の通りである。

規 模

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| 一、敷 地               | 二萬四千九百九十七坪     |
| 一、建 物 坪 數           | 七千六百九十坪五合      |
| 一、精 紡 機 緯 數         | 二萬六千二百六十八緯     |
| 一、原 動 力             | 一千馬力           |
| 一、一 年 能 力           | 一萬二千噸          |
| 一、火 災 保 險           |                |
| 一、會 費 百 萬 圓         | 工場其他附屬建物一式     |
| 一、會 費 百 萬 圓         | 原動機其他附屬        |
| 一、金 貯 萬 圓           | 工場其他附屬建物並機械等一式 |
| 計 金 貯 百 萬 圓 四 萬 圓 也 |                |
| 一、職 工 數             | 男工合計二千三百名      |

### ◆營業狀態

#### 貸借對照表

(大正十一年十二月三十一日)

貸 方 負 債 之 部

|           |               |
|-----------|---------------|
| 資 本 金     | 14,000,000.00 |
| 借 入 金     | 2,000,000.00  |
| 別 能 借 入 金 | 100,000.00    |
| 支 拂 手 懸   | 10,000.00     |
| 未 拂 工 銀   | 10,000.00     |
| 未 拂 準 備 品 | 10,000.00     |

# 泉州織物株式會社

創業

明治四十年一月

資本金

貳百五十萬圓

取締役社長

寺田元吉

専務取締役

島田良藏

取締役

義木一

同

片木政治郎

同

中谷喜右衛門

同

中田九一

同

多賀壽

監査役

信木豊三郎

同

田倉正太郎

同

加島安治郎

相談役

寺田甚興茂







て綿布原料自給の策を確立し、並んで綿力を綿糸製造に當るの域に達した。

大正九年十月本社は経済恐慌の影響に際會し資本金を百五十萬圓に増加して各工場増設を完成し、以て同様な需用に備へて今日に及んで居るのである。今や純綿額二萬三千六百圓



専務取締役 島田良藏氏

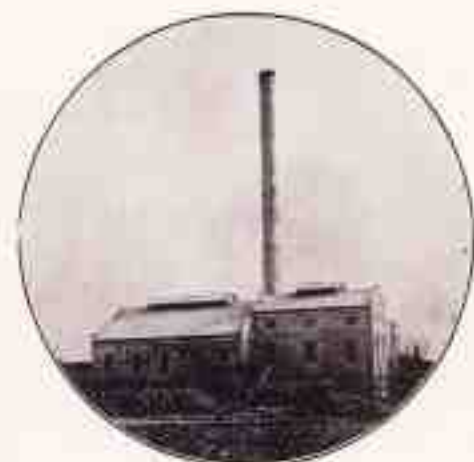


製品買上証明書

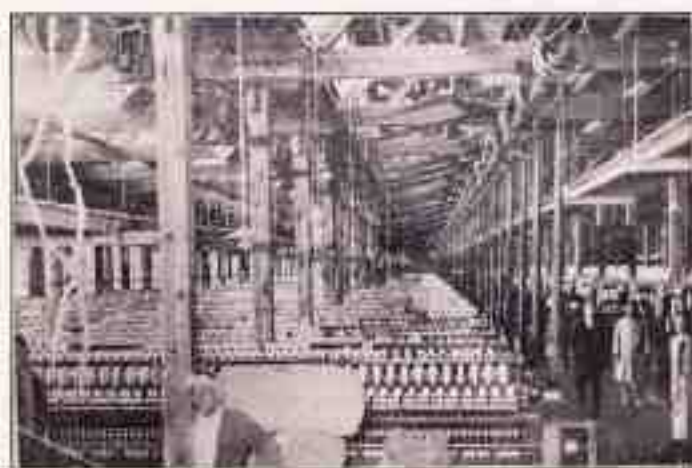


社長 田村武十郎氏

額千四百四十二圓を擁し、生産額首に六百萬圓を算するの盛況を見し、その販路は支那滿洲南洋印度にまで及んで製品の變價は漸が下り高まり、各地の博覽會品評會に於て名譽ある賞牌を受け、將來の發展向上に備へるべからざるものがあるは泉州



泉線發電所全圖



同社紡績工場内部第一

綿糸世界の雄視たるのみならず、我國綿糸界に於ても亦相當の權威たるを失はず、顧みれば十數年前に於て渺たる一小工場が幾ばくもなく斯の如き空前の發達を遂げたるは、外勢の力の致す處とは別へ、内東社以下従業員の國家的觀念に基き、勤勞と汗とを以て織り成したる綿糸ものに外ならない。

當社の製品は左の通りである。

綿布、会館寺、白茅美人、立春、銀閣寺、夜

當社の事業大要

一、工場敷地 四六、一五四坪

一、同 建坪 八、六三六坪

一、工場所在地

本社職機部 泉線市街町

同 紡績部 泉線縣生野村大字津町

高石分工場 泉北郡高石町大字高石

長谷分工場 泉南郡長谷村大字長谷

一、本社發電動力 一、五〇〇馬力

一、分工場使用動力 六八〇馬力

一、製 造 高 (六ヶ月間)

額 六、四四五入五、〇五四圓

大田綿布 六、二六六、三六〇圓

小山綿布 二、二三四、五二六圓

一、石炭消費高(六ヶ月間) 九、二四八、〇七二圓

一、第三十一期貸借對帳表(大正十一年六月三十日)

証方 負債之部

資本金

積立金

11,000,000.00

8,000,000.00

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 社 債 入 金 債 債 入 金 | 1,000,000.00 |
| 支 拂 手 形         | 1,000,000.00 |
| 買 掛 金           | 1,000,000.00 |
| 假 受 金           | 1,000,000.00 |
| 未 納 工 賃         | 1,000,000.00 |
| 未 納 工 賃         | 1,000,000.00 |
| 共 同 基 金         | 1,000,000.00 |
| 利 引 手 形         | 1,000,000.00 |
| 使 用 人 預 立 金     | 1,000,000.00 |
| 未 納 社 債 利 息     | 1,000,000.00 |
| 未 納 配 當 金       | 1,000,000.00 |
| 預 計 金           | 1,000,000.00 |
| 未 納 配 當 金       | 1,000,000.00 |
| 前 期 繰 越 金       | 1,000,000.00 |
| 當 期 利 益 金       | 1,000,000.00 |
| 合 計             | 1,000,000.00 |
| 債 方 登 載 之 部     |              |
| 未 納 配 當 金       | 1,000,000.00 |
| 地 租             | 1,000,000.00 |
| 租 稅             | 1,000,000.00 |
| 賃 金             | 1,000,000.00 |
| 什 物             | 1,000,000.00 |
| 未 納 諸 保 險 料     | 1,000,000.00 |
| 原 金             | 1,000,000.00 |

|                                                   |              |
|---------------------------------------------------|--------------|
| 仕 掛 品                                             | 1,000,000.00 |
| 製 品                                               | 1,000,000.00 |
| 買 掛 金                                             | 1,000,000.00 |
| 代 金 取 立                                           | 1,000,000.00 |
| 倉 庫 貯 蓄                                           | 1,000,000.00 |
| 銀行 預 定                                            | 1,000,000.00 |
| 預 取 手 形                                           | 1,000,000.00 |
| 準 備 物 品                                           | 1,000,000.00 |
| 常 用 合 同 定                                         | 1,000,000.00 |
| 大 日 本 紡 織 會 社 信 託 金                               | 1,000,000.00 |
| 特 種 増 設 電 力 配 置 費 抽 金                             | 1,000,000.00 |
| 合 計                                               | 1,000,000.00 |
| 一、損 計 算 書 (自 大 正 十 一 年 一 月 一 日 至 同 年 六 月 三 十 日 止) |              |
| 無 業 益 金                                           | 1,000,000.00 |
| 合 計                                               | 1,000,000.00 |
| 支 出 之 部                                           |              |
| 石 炭 及 電 力 使 用 料                                   | 1,000,000.00 |
| 租 稅 及 諸 費                                         | 1,000,000.00 |
| 租 稅 給 付 工 賃                                       | 1,000,000.00 |
| 租 稅 金                                             | 1,000,000.00 |
| 工 場 設 備 修 繕 費                                     | 1,000,000.00 |

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 運 轉 費 荷 担 費         | 1,000,000.00      |
| 社 債 利 息             | 1,000,000.00      |
| 支 拂 利 息             | 1,000,000.00      |
| 大 日 本 紡 織 會 社 信 託 費 | 1,000,000.00      |
| 事 務 所 費 及 諸 費       | 1,000,000.00      |
| 合 計                 | 1,000,000.00      |
| 一、利 益 金 處 分         |                   |
| 當 期 利 益 金           | 1,000,000.00      |
| 前 期 繰 越 金           | 1,000,000.00      |
| 合 計                 | 1,000,000.00      |
| 積 立 金               | 1,000,000.00      |
| 特 式 配 當 金 (一 割 二 分) | 1,000,000.00      |
| 後 期 繰 越 金           | 1,000,000.00      |
| 一、重 投               |                   |
| 取 締 役 長             | 寺 田 元 吉 氏         |
| 取 締 役 員             | 島 田 良 藏 氏         |
| 取 締 役 員             | 森 本 一 氏           |
| 取 締 役 員             | 片 木 政 治 郎 氏       |
| 取 締 役 員             | 中 谷 喜 右 衛 門 氏     |
| 取 締 役 員             | 中 川 九 一 氏         |
| 取 締 役 員             | 多 賀 清 氏           |
| 取 締 役 員             | 佐 藤 三 郎 氏         |
| 取 締 役 員             | 田 倉 正 太 郎 氏       |
| 取 締 役 員             | 加 藤 安 治 郎 氏       |
| 取 締 役 員             | 相 談 役 寺 田 甚 興 茂 氏 |

一、事務分掌

|          |             |
|----------|-------------|
| 工務長兼市補佐  | 中 田 九 一 氏   |
| 支配人兼會計主任 | 田 崎 幸 次 郎 氏 |
| 技術部長兼工場長 | 横 田 武 十 郎 氏 |
| 庶務主任     | 安 井 友 雄 氏   |
| 販賣部長兼車輪役 | 夢 賀 壽 氏     |
| 販賣主任     | 春 崎 彌 之 助 氏 |
| 用度主任     | 西 村 久 吉 氏   |
| 紡績工場管理人  | 池 田 利 一 郎 氏 |
| 織布工場管理人  | 田 中 治 平 氏   |
| 真石工場管理人  | 寺 田 基 之 助 氏 |
| 長瀬工場管理人  | 西 川 榮 太 郎 氏 |

二、受 賞

- 一、明治四十二年五月關西製産品共進會名譽賞金牌
- 一、同 年十二月京濱都生産物品評會優等賞
- 一、明治四十三年六月愛知縣主催第十四回西府博覽會名譽賞金牌
- 一、明治四十四年五月兵庫縣主催貿易品共進會金牌
- 一、大正四年五月第七回日本産業博覽會名譽賞金牌
- 一、大正十年 月平和博覽會銀牌
- 一、大正十一年三月 皇后陛下吉野社に行休被迎たる際台費に供したる品其優美質上の美譽を得たり

# 佐野紡績株式會社

當社は、大正十年一月の創立にして、元寺田元吉家個人經營に属する佐野紡績院を繼承、組織を變更して佐野紡績株式會社となしたるものにして、社長寺田元吉氏以下一門を以て重役とし、木



寺 田 元 吉 氏  
専務取締役  
助 手



木 村 寛 氏  
支 配 人

村寛氏を工場管理人として資本金五百万圓を以て經營を導きつつあり、社長寺田元吉氏は、同家寺田氏與茂翁の次男にして、事業と共に寺田一門の興隆を策し、地方産業の振興に與つて功勞

ありし事は世人周知の事實である、而かも自ら誇らず、常に奮勵力一門を率ひ、興隆を指導し、更く郵局に處して生見派の明を映かす、人に對するに温情慈仁、而して働く時代の趣向を認識して、車を行ふに緩急緩急の節度を誤らず、實に一代風

格の模倣である、社補役寺田元吉之助氏亦乃父の地を承けて、建議究く模倣なる同家の請事書を把握視察して、その選取を計り、一門一家の月必興々たる盛況に満ちてゐるのである、畢竟當社は此の盛況内に育てゐるも、盛況は外ならない。

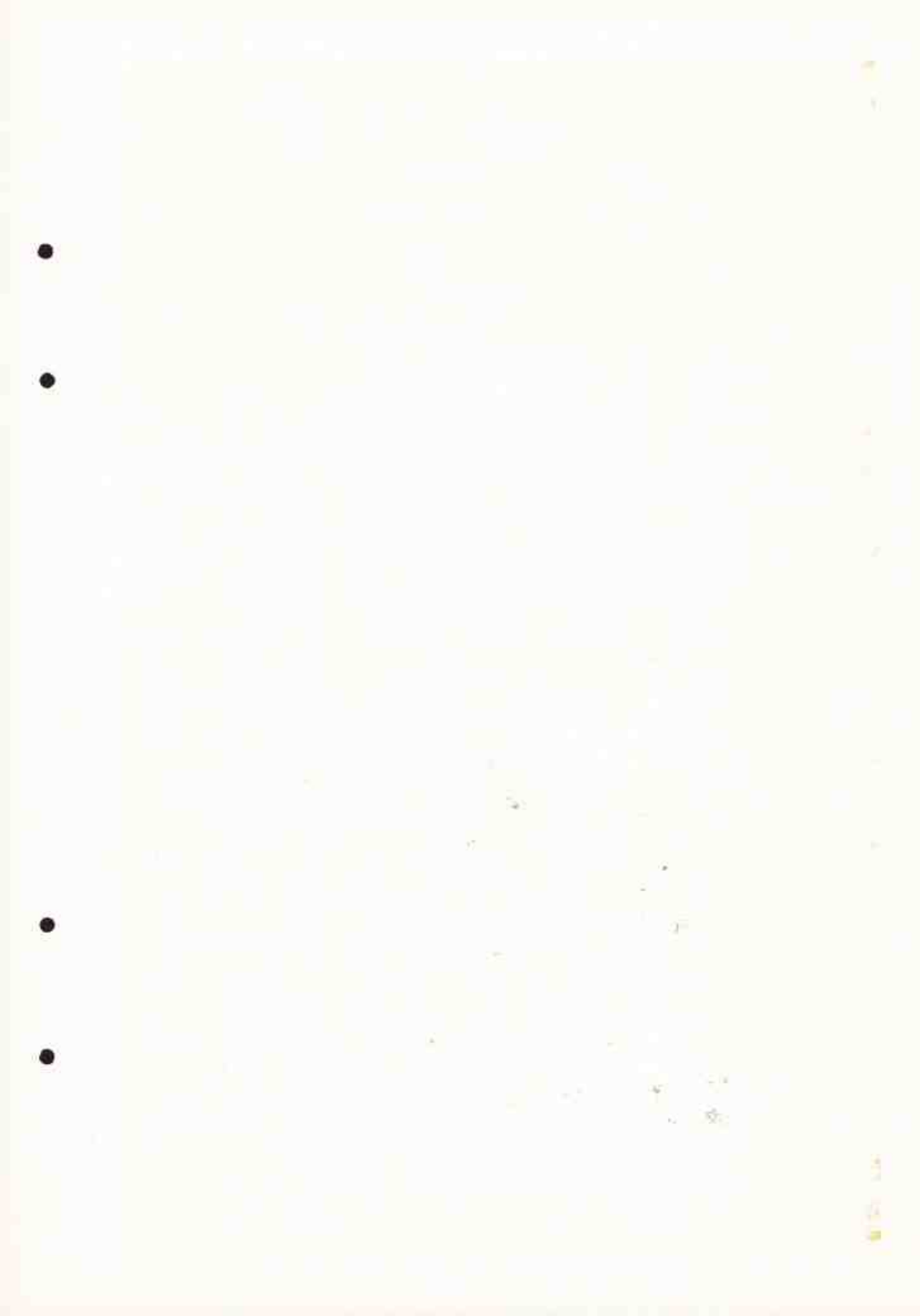
當社は、京濱佐野に工場を置き、本社を岸和田市北町の寺田元吉之助氏本邸内に置き、元之助氏より一切の社務を統掌し、工場を補助協賛する木村寛氏に支配管理せしめて、經營無比、而して従業員職工を満するに、家族的愛を以てし、勞務一體渾然として美を濟し、以てその事業を導めつゝあるの盛況は、近し事業界の模範である。

|                        |             |
|------------------------|-------------|
| 一、工 場                  | 九、五五三坪      |
| 工 場 建 物                | 一、一三三坪      |
| 附屬建物                   | 一、二九五坪      |
| 機 械 (紡績機)              | 一〇、二二四機     |
| 力 (モーター)               | 四八五馬力       |
| 職 工 (男女計)              | 三九〇人        |
| 一、生 産 額                | 一ヶ月二十萬五千〇〇圓 |
| 一、販 路                  | 東京、京南、京北地方  |
| 一、貸借對照表 (大正十一年六月三十日現在) |             |
| 借 方                    | 資 産 之 部     |
| 未 納 込 金                | 三、七五〇、〇〇〇圓  |
| 家 屋                    | 三、七五〇、〇〇〇圓  |
| 諸 機 械                  | 一、二四五、〇〇〇圓  |
| 地 所                    | 一、〇〇〇、〇〇〇圓  |
| 諸 具                    | 一、〇〇〇、〇〇〇圓  |
| 仕 算                    | 一、二五〇、〇〇〇圓  |



# 佐野紡績株式會社

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 同 | 監 | 同 | 取 | 取 |
|   | 査 |   | 締 | 締 |
|   | 役 |   | 役 | 役 |
| 寺 | 寺 | 寺 | 寺 | 寺 |
| 田 | 田 | 田 | 田 | 田 |
| 楠 | 正 | 榮 | 元 | 元 |
| 次 | 藏 | 一 | 之 | 吉 |
|   |   |   | 助 |   |





岸和田煉瓦綿業株式会社

社長 寺田甚興茂

22

2

11

1

2

3

4

5

6



を改良して其の能力を卓著ならしめ、努めて製品を改良し、価格を低廉ならしめた結果、一時は經濟界の注目を集める時期に際会したが何等の躍進を見ず、信用日に墮落して益々困難を増加し只々倒産多発を旨として營業を繼續したのである。

大正四年八月専務取締役辭任したるを以て社長寺西其與茂氏は大綱を整理し、専務取締役に金納順一氏を擧げ、新第一實業社を新設したのである。時情も我儘其界は最も不況時代であつたが、不況不屈更々社員、職工を贊助し事務を舉めし一致協力其難に堪へたのである。然るに歐州戰亂の結果我國洋工業の大動向を來し、機瓦の需用は急増し、従つて價格は日に昇騰し賣行活動にして在庫品は直に一掃され、注文の輻輳、製品の出荷を續くる盛況を呈したのである。この時期に處せんが爲計近隣の上に廣大の敷地を求め、分工場を設けし、機瓦二萬を製造して往々製造の増大を計つた。

大正六年四月創立三十周年を記念する爲各株主一同得意先共進従業員等に記念品並に金品を贈與し、且重なる關係者を招待し、超へて大正八年十二月資本金を壹百萬圓に増加し、名稱を岸和田機瓦工業株式會社と改めた。

當時我國の紡績織布界は實に空前の盛況を呈し既設各會社は孰れも益々の利潤を収め、倍々増資擴張の企圖をなし加之新設會社の創立は日毎に増加したのである。殊に吾島州は製布の特産地として名あり、而して此の地に適當の工場敷地を所有するは各同業者の等しく羨望する所であつて、幸に當社は此の優越の地に廣大なる敷地を有するを以て茲に機布事業を企劃し時代の進運に順應し來つたのである。大正十年一月工事終了と共に該機械の搬付をなし日下機瓦五十萬、巾襖機瓦三百萬を運轉

し、機瓦並に相繼ぎて南々神室の収益を収めてゐる。蓋し當社の如きは我泉市事業界の誇たるのみならず、又以て我國製業の輝光と稱して可なりである。

◆機 瓦 部

|           |                  |
|-----------|------------------|
| 一、工場所在地   | 岸和田市並松町          |
| 本社工場      | 泉南郡北播磨村大字磯上      |
| 同上分工場     |                  |
| 一、地 所     | 五一、四四六坪七一        |
| 一、建 物(建築) | 五、八四七坪二八         |
| 一、機瓦燒成室   | 七長(一ヶ月能力四、二〇〇千個) |
| 一、使用動力    | 四〇〇馬力            |
| 一、一ヶ月製造額  | 五、〇四〇、〇〇〇個       |
| 合 計       | 一、二八六、〇〇〇、〇〇〇    |

◆紡 織 部

|           |            |
|-----------|------------|
| 一、工場所在地   | 岸和田市並松町    |
| 一、地 所     | 六、六八二坪     |
| 一、建 物     | 二、四二七坪     |
| 一、機 械     | 五〇臺        |
| 別添織機      | 三〇〇臺       |
| 中機中織機     | 三二〇馬力      |
| 一、使用動力    | 二二〇馬力      |
| 一、一ヶ月製造額  | 一、〇〇〇、〇〇〇個 |
| 合 計       | 六、三〇〇、〇〇〇個 |
| 一、一ヶ月製造金額 | 一、五〇〇、〇〇〇圓 |

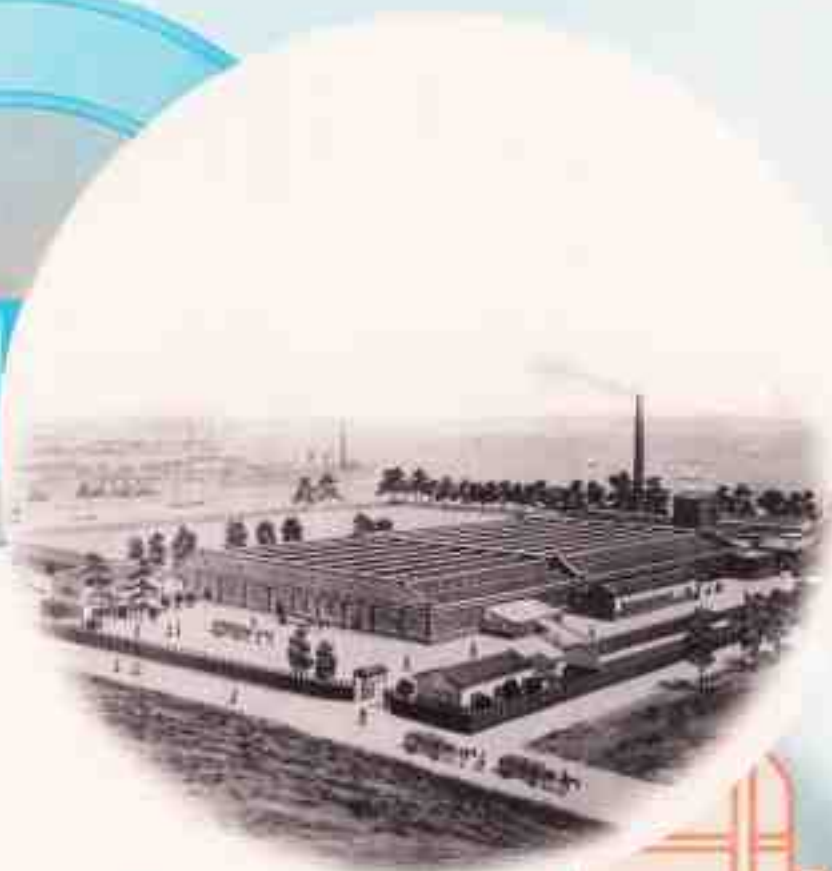
一、貸借對照表(大正十一年六月三十日)

◆資 金 部

|           |             |
|-----------|-------------|
| 一、株 金     | 100,000,000 |
| 一、積 立 金   | 25,000,000  |
| 一、配當準備金   | 10,000,000  |
| 一、計損繰越利益金 | 4,500,000   |
| 一、職工保護資金  | 10,000,000  |
| 一、諸 預 り 金 | 11,000,000  |
| 一、未 拂 金   | 10,000,000  |
| 一、支拂手形    | 100,000,000 |
| 一、行 銀 勘 定 | 100,000,000 |
| 一、前期繰越金   | 25,000,000  |
| 一、當期繰越金   | 25,000,000  |
| 合 計       | 250,000,000 |

◆資 産 部

|           |             |
|-----------|-------------|
| 一、地 所     | 100,000,000 |
| 一、建 物     | 100,000,000 |
| 一、機 械     | 110,000,000 |
| 一、積 立 金   | 25,000,000  |
| 一、原料土     | 10,000,000  |
| 一、煉瓦石     | 10,000,000  |
| 一、石 炭     | 10,000,000  |
| 一、庫 庫     | 10,000,000  |
| 一、諸 預 り 金 | 10,000,000  |
| 一、未 拂 金   | 10,000,000  |
| 一、支拂手形    | 100,000,000 |
| 一、行 銀 勘 定 | 100,000,000 |
| 一、前期繰越金   | 25,000,000  |
| 一、當期繰越金   | 25,000,000  |
| 合 計       | 250,000,000 |



東洋麻系紡織株式會社

營業  
種目

麻系 縫糸 王糸  
ヘシアンクロス 麻帆布 米袋  
雜穀及セメント袋其他シート  
製品一切

社長 寺田元之助

相談役 寺田甚與茂





[illegible]

|      |           |          |           |
|------|-----------|----------|-----------|
|      | 一、仕       | 品        | 三〇三,〇〇〇   |
|      | 二、綿       | 布        | 四六,〇〇〇    |
|      | 三、賣       | 料金       | 四九,五〇〇    |
|      | 四、買       | 料金       | 三〇,〇〇〇    |
|      | 五、未收入金    |          | 五七,〇〇〇    |
|      | 六、現       | 金        | 三三,〇〇〇    |
|      | 合         | 計        | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
|      | 一、利益金處分   |          | 一〇〇,〇〇〇   |
|      | 二、當期積益金   |          | 一三三,〇〇〇   |
|      | 三、前期繰越金   |          | 八六七,〇〇〇   |
|      | 合         | 計        | 二六一,〇〇〇   |
| 丙    | 積立金       |          | 一六〇,〇〇〇   |
|      | 株主預當金(年割) |          | 九〇〇,〇〇〇   |
|      | 換期繰越金     |          | 六,〇〇〇     |
| 一、重役 |           |          |           |
|      | 取締役社長     | 寺田 善興 彦氏 |           |
|      | 取締役       | 寺田 元吉氏   |           |
|      | 同         | 廣海 登太郎氏  |           |
|      | 専務取締役     | 金橋 源十郎氏  |           |
|      | 支配人       | 金橋 實雄氏   |           |
|      | 監査役       | 宇野 保太郎氏  |           |
|      | 同         | 岸村 徳平氏   |           |
|      | 總         | 上山 徹太郎氏  |           |

東洋麻絲紡織株式會社



麻袋の製造をなし、その七割を大連、神戶、東京等内地に供給し、三割を滿洲、ハルビン方面に輸出しつつあり。元來此種製品は重に輸入に供したるが當所は國家經濟上より見て原料を輸入して之を内地に於て精製し輸入の防壁のみならず進而輸出を欲みるべく奮勵努力しつつあり、現在の状況に於ては原料の移轉と



# 泉州瓦斯株式會社

明治四十三年七月、本邦あるが泉州町に於て瓦斯設備のなきを痛く感懐とし茲に岡田伊平、堤安之助、番匠谷清、出



同武間瓦斯



社長 岡田伊平氏

野治平、澤野七郎、岡田惣吉、安藤新助、川崎清平、新川榮助、西原新助、新橋太郎、辻新吉の諸氏發起となりて我泉州瓦斯株式會社を設立し資本金貳拾五萬圓を以て營業を開始した。

泉州町發達史 第五編 金融と工業界

當時に於ける吾が泉州町及板橋町に於ては未だ瓦斯そのものに對して何等科學的知識を有せず従つてその經濟的利用の能を知らなかつたのであるが軍機謀氏の熱心と努力により漸次その效用と便益とを知悉するに至り遂に今日の如く需用の旺盛を來すに至つたのである。

泉州町とその附近町村の工業的發展に比例して瓦斯需要の



支那人 田川氏

前途は益々有望であつて隨時將來に於て當社は茂野町、大津町等に於ても供給設備の計畫を有し商業を遂つて鐵道の進出に即ちこの文明の恩恵を普及せしむべく高邁なる社會的使命感を懷じて居るのである。

以下當社の概況を紹介すれば

- 一、當 社 概 況 (大正十一年十二月末現在)
- 一、股 本 一千八百九十坪
- 一、レトリート 二十坪
- 一、貯 蔵 庫 貯蔵五萬立方呎 一基
- 一、製 氷 機 一基夜間製氷能力四噸 六基
- 一、直火式暖氣設備機 一基夜間製氷能力十萬 一基
- 一、計量器取付數 一千六百十三個
- 一、瓦斯管線長 十萬〇一千〇五十八呎
- 一、瓦斯製造能力 一晝夜十二萬立方呎
- 一、湖產物製造高

コーパス 一ヶ月 五十噸  
コーンタール 一ヶ月 四十石

## 借 方

|           |            |
|-----------|------------|
| 一、地 所     | 三三六、〇〇〇    |
| 一、瓦斯管及計器  | 六、二四三、五〇〇  |
| 一、建物及機械   | 三、四八三、四〇〇  |
| 一、貯蔵品及修品  | 五、一三三、三〇〇  |
| 一、貯 蔵 品   | 三三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、未收入金勘定  | 五、九八三、〇〇〇  |
| 一、有價證券    | 一〇〇、〇〇〇    |
| 一、借 出 金   | 三三、〇〇〇     |
| 一、金 額 勘 定 | 三三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合 計       | 三三、〇〇〇、〇〇〇 |

## 貸 方

|         |               |
|---------|---------------|
| 一、資 本 金 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、積 立 金 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、未拂金勘定 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、借 入 金 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、前期繰越金 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一、当期利益金 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合 計     | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |

## 岸和田吳服株式會社

呉は朝に從ひ、朝は心を盡す。弊害の正しきを見て人の美稱を榮り、形を見て其人の性を識ふべし、蓋し、衣服は人に様しはを直す上に決して閑にすべからざるものである。禮節に超るとは知子の言、宜なるかな智性の常識を以て人を萬物の類長と云ふは衣を以て人の美を尊はし、美稱の故を致すべし要極と爲した處にあるので、人文の發達も進化の理法も畢竟此處に出不ない。衣は食住に先んじて生活の第一要件とせられ特代の進歩と共に進歩の道を成したのも亦故であらう。

當社は明治四十一年九月當地の著名吳服業者川合名會社、土井榮三郎、佐野千太郎、濱崎太郎の諸氏を初め宮内可一、廣澤健作、山崎秀四郎、岡田伊平の諸氏、並びに現在の社長辻本芳松氏等發起人となり、資本金壹萬圓總額五萬圓を以て創業したものであつて、當時の岸和田市に於ける小規模の呉服小賣舗が小は仕入れの爲原價不廉にして從つて小賣價格の低廉を期し難きを憾し、大賣仕入れ薄利多賣の原則を定め、以て民衆に對する經濟と便宜を圖つたのであつた。然るに日露戰役對岸反動の整理期に際し、時の政府が財政緊縮方針を執りたる爲、一般商況は極端の沈衰を來し當社も之が影響を蒙りて成程不振の進路を辿つたのであつた。是に於て當社幹部は豫め之に對應して豫く難症の方針を執り社債の購買を期せんが爲資本金を五萬圓に減額し以てその營業方針の眞面目と用意の周到を期するに足るであらう。

其後歐洲戰亂の好影響は財界の急激なる膨脹となり、豫想外の利益を獲得し、日販賣高を激増することゝなつた。乃ち大正八年九月二十一日資本金を一擲拾五萬圓に増額して益々營業を擴張することゝなり近距離々今日に及んでゐる。

社長辻本芳松氏は急性肺病致厚、無情家風に先んじて起臥、城内の別邸に赴き暫時阿彌陀如來を神拜祈禱し、歸つては自ら率先店前に執筆し、玄く部下を奨励督勵し、應ずるに家範的温



第一の店 會社 吳 岸

情を以てするが故に自づから店員を養ひ、店員の顧客に對する親切誠實は實に當社が無類の財産として誇つてゐる所以である。尙社長の變つた試みとして店員の出動導に代るに金飾帳を以てし毎朝出勤前に消無阿彌陀佛を念じ出勤に當つては原印に代ふるに念師の記入を以てしてゐるとは面白い。當社の販賣制度は店員を主とし店外即ち出廻りを從としてゐるが、皆且つ得直先は泉涌、最北の一帯に及び南海沿線各驛附近の町村には毎

日各一名づきの親賓員を出張せしめてゐる。

當社は十一年十二月十日不幸坂原氏の見舞ふ處となり全社の悲に遇ふたが仙舟の根成盛重社長は本氏は敬て意とせず、却つて發起の勸導を興へられたるものとなし店員を鼓勵し、自宅を提供して臨時店鋪となし益々その業務を振興せしめつゝある情ら前より規模大なる新館の建築を急がせ翌十二年三月末には之れが竣工を告げ今の舊に倍する遙かなる營業額を示してゐる。

一、貸借對照表(大正十一年八月三十一日現在)

| 資力 負債之部   |             |
|-----------|-------------|
| 一、資本金     | 100,000,000 |
| 一、法定積立金   | 2,000,000   |
| 一、社員積立金   | 2,000,000   |
| 一、購買積立金   | 2,000,000   |
| 一、手形積立金   | 2,000,000   |
| 一、商品切手積立金 | 1,000,000   |
| 一、債受金     | 2,000,000   |
| 一、前期繰越金   | 1,000,000   |
| 一、當期純益金   | 2,000,000   |
| 合 計       | 110,000,000 |
| 借方 資産之部   |             |
| 一、未納品資本金  | 2,000,000   |
| 一、商品積立金   | 2,000,000   |
| 一、購買積立金   | 2,000,000   |
| 一、却購買積立金  | 2,000,000   |
| 一、地所家屋    | 2,000,000   |
| 一、什器勘定    | 2,000,000   |



# 保證責任 岸和田信用組合

大正八年創立

岸和田市北町電話三三三番

貝塚出張所

貝塚中町 電話二六番

事業

資金貸付  
手形割引  
貯蓄預金  
普通預金  
當座預金  
定期預金  
定期貯蓄預金  
定期貯蓄預金

特色

組合區域內居民利便計其目的ハ政府保護獎勵依ル庶民銀行ナリ  
組合一切税金ヲ免除スル故ニ預金利息ハ一般銀行ヨリ高率ナリ  
預金對テ政府供託金ヲ提供スル故ニ最モ安全ナリ  
組合區域內住居ノ方ハ何時ニモ加入スルヲ得  
組合區域 岸和田 貝塚 北掃守 麻生郷



TRADE MARK

川井文具製造株式會社





|              |            |
|--------------|------------|
| 一、銀行勘定       | 11,111,000 |
| 一、有價証券       | 8,888,000  |
| 一、貸余勘定       | 10,000,000 |
| 一、償拂金        | 100,000    |
| 一、金銀有高       | 161,101    |
| 合 計          | 30,160,101 |
| 一、利益金分配案     |            |
| 一、當期利益金      | 27,000,000 |
| 一、前期繰越金      | 1,800,000  |
| 合 計          | 28,800,000 |
| 内            |            |
| 法定積立金        | 1,000,000  |
| 配 當 金(年一割二分) | 27,800,000 |
| 賞 與 金        | 500,000    |
| 後期繰越金        | 1,500,000  |
| 一、重 役        |            |
| 取締役社長        | 辻 本 秀 雄氏   |
| 取締役          | 辻 本 豊 三 郎氏 |
| 同            | 村 田 徳 太 郎氏 |
| 常務取締役        | 辻 本 清 次 郎氏 |
| 同            | 中 田 諒 之 輔氏 |
| 同            | 平 川 好 太 郎氏 |
| 監査役          | 大 澤 竹 松氏   |
| 同            | 小 倉 政 雄氏   |



書岸和田要覽後

岸和田要覽編成時余方其後余宿病  
一弛之地未全除辭拒再三乃乃就  
作此王至產之時代跋辭以塞責云

櫻花松樹等四邊新王至臺以一  
長春所平丁當年所立地碑  
陰尚王宮在人

大正十二年三月

福井柳石





福

別

品

舟木二三二

兒玉政介

橋龜太郎

山本眞一郎

菅田元成

森下重格

川原平次郎

福尾彌太郎

池田善太郎

來栖均

落合保

桐谷岩次郎

奥三代松

田中良一

田中義者

井上例

伊藤吉彦

中井義朝

和田孫三郎

須藤秀樹

祿

元

永

井阪豐光

寺田甚與茂

寺田元吉

寺田元之助

寺田見龍

寺田甚吉

寺田榮一

浦田甚五右衛門

川崎長左衛門

金納源十郎

岸村德平

大槻與三郎

濱口龜太郎

關二郎

向井宗重郎

多賀壽

横田武十郎

岡田安太郎

湊定松

小田利三郎

福

別

品

宇野亮一

廣澤耕作

寺田利吉

原甚之丞

白井治平

川井源五郎

佐々木信次郎

岡田惣吉

岡田伊平

久住政七

三宅政右衛門

川崎德太郎

村田德太郎

出上定吉

日吉端

廣野一郎

覺野德平

覺野勝三郎

村田宣寛

山崎秀四郎

福 叛 羽

|                       |                  |                       |                  |                       |
|-----------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|
| 泰<br>小<br>一<br>郎      | 高<br>林<br>半<br>二 | 藥<br>師<br>德<br>松      | 福<br>井<br>楠<br>喜 | 岸<br>田<br>良<br>太<br>郎 |
| 小<br>玉<br>八<br>平      | 中<br>川<br>英<br>彦 | 宮<br>内<br>觀<br>八      | 川<br>崎<br>藤<br>七 | 田<br>中<br>次<br>良<br>一 |
| 西<br>端<br>辰<br>之<br>助 | 川<br>崎<br>廉      | 小<br>林<br>惣<br>一<br>郎 | 二<br>山<br>泰      | 若<br>林<br>楠<br>太<br>郎 |
| 道<br>姓<br>德<br>太<br>郎 | 木<br>村<br>寛      | 辻<br>金<br>男           | 森<br>内<br>盛<br>藏 | 宮<br>田<br>眞<br>三<br>郎 |

福

別

元

辻

楠松

大家安治郎

左納千太郎

前田喜代三郎

山崎良吉

岡部繁三郎

小林楠太郎

山下淺吉

永橋久吉

適々會員一同

森本文五郎

黒川重一郎

伊藤由松

辻本芳松

野上徳右衛門

酒井大三郎

河野快藏

辻本元次郎

阪口新二郎



祝 賀

|                             |                            |                               |                             |
|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| <p>野 中 醫 院</p> <p>野中藤太郎</p> | <p>橫 山 醫 院</p> <p>橫山桑夫</p> | <p>落 合 醫 院</p> <p>落合準之助</p>   | <p>巖 崎 醫 院</p> <p>巖崎芳之丞</p> |
| <p>在竹齒科醫院</p> <p>在竹三郎</p>   | <p>米田德次郎</p> <p>醫師</p>     | <p>玉井產科婦人科醫院</p> <p>玉井次良吉</p> | <p>諏 訪 醫 院</p> <p>諏訪常吉</p>  |
| <p>檜葉齒科醫院</p> <p>檜葉操</p>    | <p>橘 醫 院</p> <p>橘 鎌二</p>   | <p>吉 田 醫 院</p> <p>吉田吉三郎</p>   | <p>垣 醫 院</p> <p>垣 純吉</p>    |
| <p>和泉齒科醫院</p> <p>蛸地蔵驛下</p>  | <p>磯 野 醫 院</p> <p>磯野俊美</p> | <p>川井小兒科醫院</p> <p>川井犁鐵</p>    | <p>山 田 醫 院</p> <p>山田與八郎</p> |

おと氣

平 召 中 氏

おと氣

大

大崎 呉服店

電話 五十八番

岩手県 大崎 市 操子橋 寺 法



天下  
一品

芳香  
風味

登錄商標

新年嘉祥  
始鼓腹



岸和田

寺田釀造部吟釀



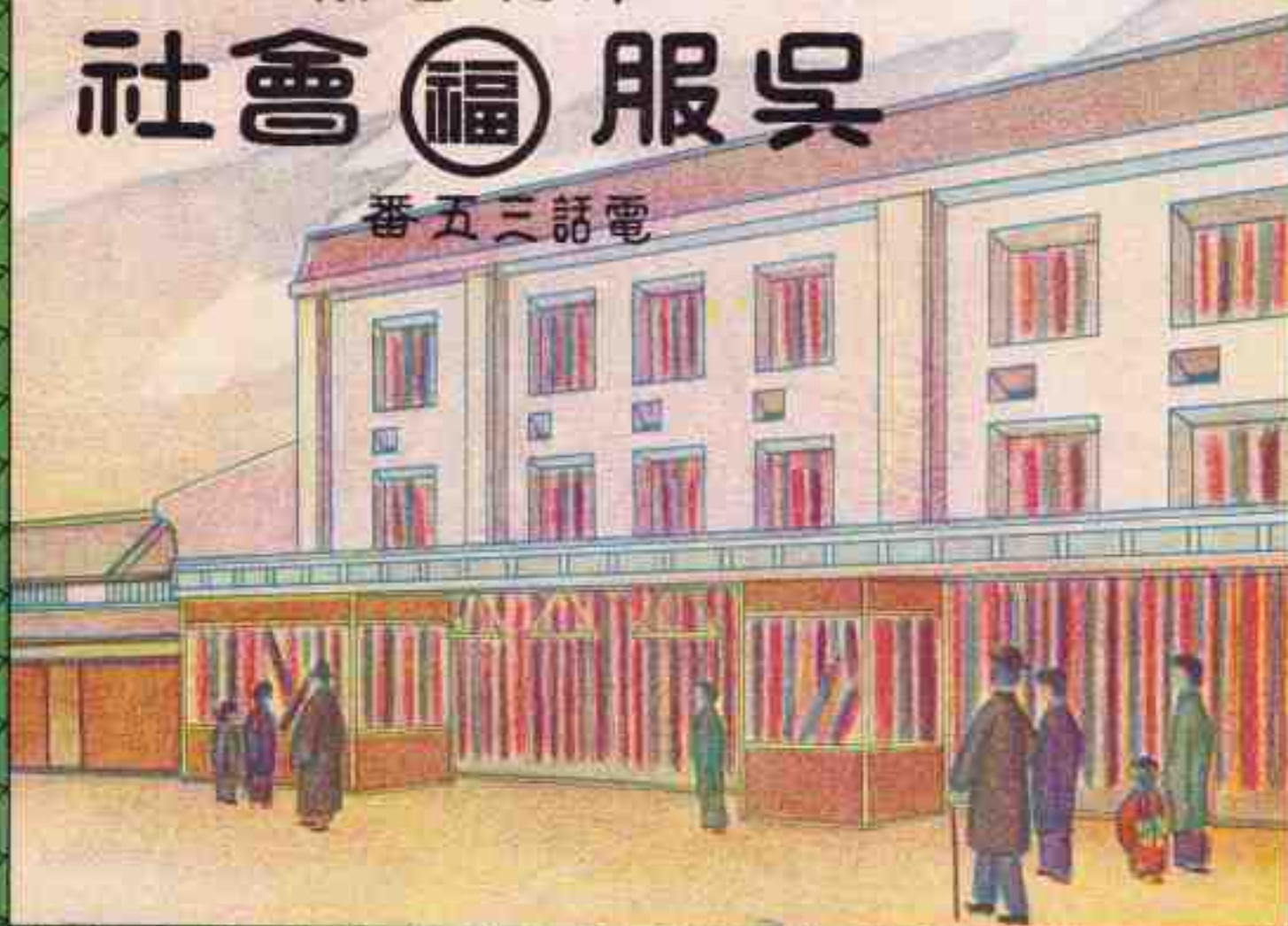


1



市田和岸  
**服吳 福 會社**

番五三話電



卸小賣  
 貴金屬類  
 外小間物  
 内化粧品

諸南橋んかんら田和岸  
 番九六三岸 話電  
 堂泉金谷塩



福

別

福



岸和田産院

院主奥ちゑの

仲村薬店

仲村一男

佐納薬店

佐納富三

平松薬局

平松保二



中村印刷所

岸和田市北町（電話七番）

營業課目

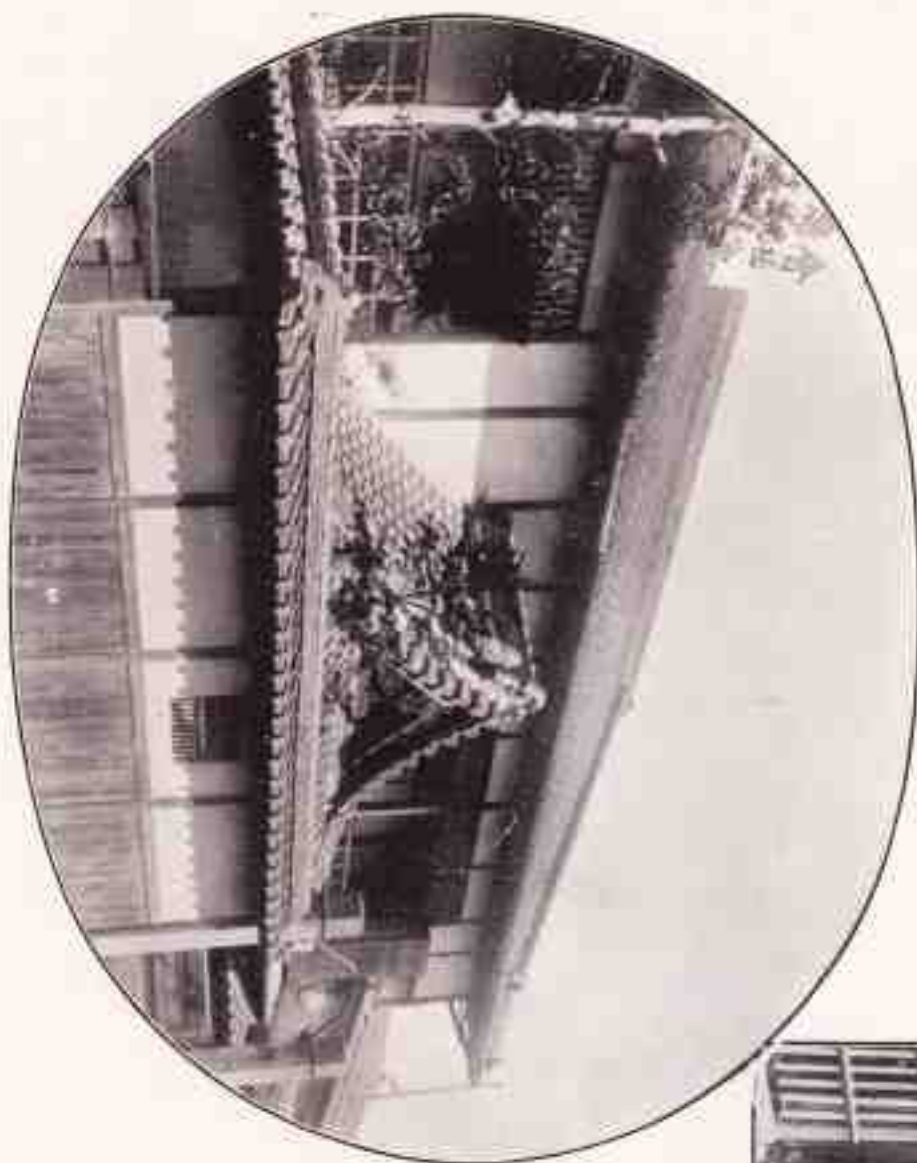
|      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 諸版印刷 | 和洋帳簿 | 各種名刺 | 書翰封筒 |
|------|------|------|------|

福

別

品

# 會 席 御 料 理



## 極 忠 樓

本 店 具 探 新 地 電 話 三 五 番  
支 店 具 探 前 電 話 六 六 番

# 祝市制記念和田要鑑刊行

御 料 理



鍋 卵 樓

岸和田市前驛 電話二五九番

岸和田市並松町

三矢織布工場

和田稔之助

岸和田市南町

米雜穀  
精米業

石井末吉商店

電長四八番

ブランドン文具  
鹿印中外運動具 泉州理代店

西田文錦堂

店主 藤原龜太郎

岸和田市本町 電話二四五番

岸和田市沼町



左納鑄造所

左納佐十郎

岸和田市下野町

小間物商 小林商店

薪炭 小林薪炭部

小林楠太郎

銘酒 豊 稔



醸造元

信貴本店

泉州郡山直村横川

岸和田市大北



關西式會社 岸和田出張所

電話三四八番

本店 大阪市西區市岡町九〇三

電話西三八五九番

泉州郡麻生郷村字麻生郷中

西上友染工場

# 祝市制記念和岸田要鑑刊行

タ  
マ  
ル  
敷  
布  
製  
造

**福**  
福本織布工場

福本紋太郎

岸和田市宮本町  
電話四〇五番

泉州瓦斯會社  
副産物一手販賣  
支那天然木炭大賣捌  
諸國木炭販賣

**浅田商店**

岸和田市本町  
電話二〇七番

泉州瓦斯株式會社

岸和田市大工町 電話一三〇番



双  
馬  
票  
鍋  
釜  
製  
造  
小  
麥  
粉  
販  
賣

**宇野商店**

泉州南郡貝塚町北  
特電貝塚參〇番

紡  
織  
用  
品  
電  
氣  
器  
具  
商



**奥野音商店**

岸和田市並松町

# 祝市制記念和田岸要鑑刊行

書

肆 齋

藤

貞

電話 一三一番

岸和田市堺町



さ つ ま や

岸和田市堺町通

電話 一〇番

装身具一式



プラチナ時計

高級ダイヤモンド

池宮時計店

岸和田市欄千橋南詰  
電話 二三五番

本店

大阪市南区難波驛前  
電話 一四四四番

支店

各種

書籍 雜誌

岸和田市木町

西出書籍店

電話 八二番

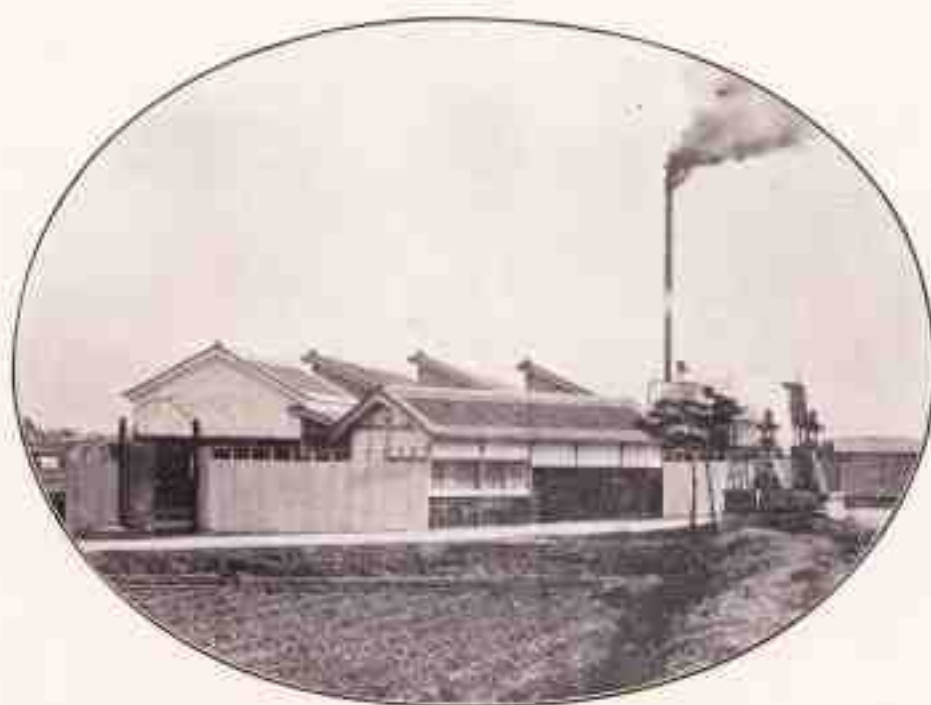
祝市制記念岸和田要鑑刊行

印刷と帳簿

岸和田市下野町

朝日印刷所

電話七五番



和泉サングヰ株式會社

岸和田市上町

祝市制記念和岸田要鑑刊行

旅館



御料理

## 田邊樓

前所役市田和岸  
番一七話電

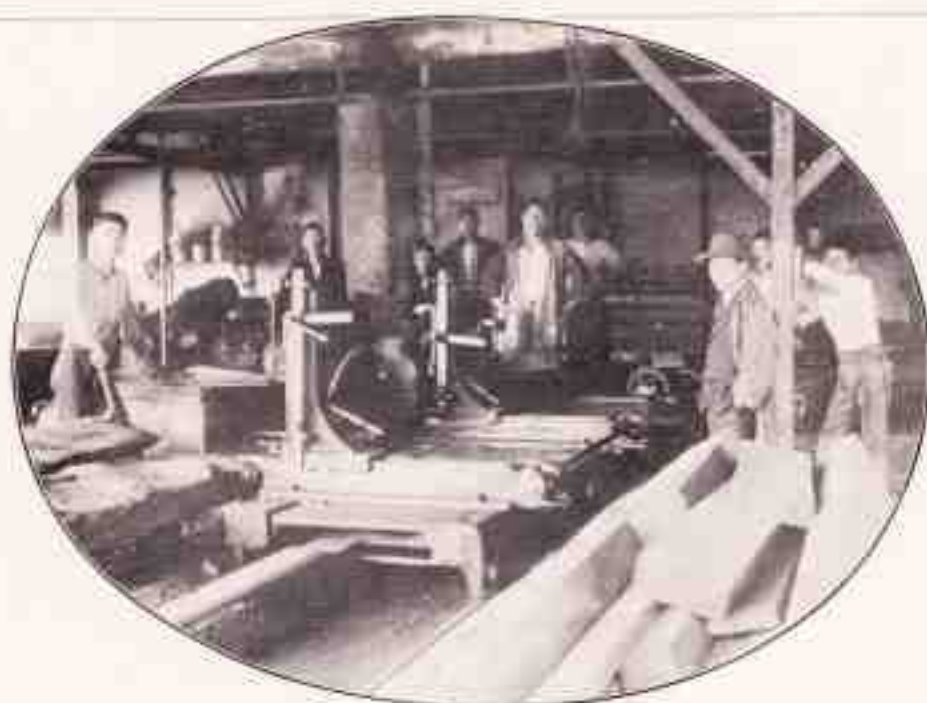
土木建築請負業

## 中筋組

中筋音五郎

和岸田市岸城町

# 祝市制記念岸和田要鑑刊行



和泉運輸曳船株式會社

製材部

岸和田市並松町 電話二二一番

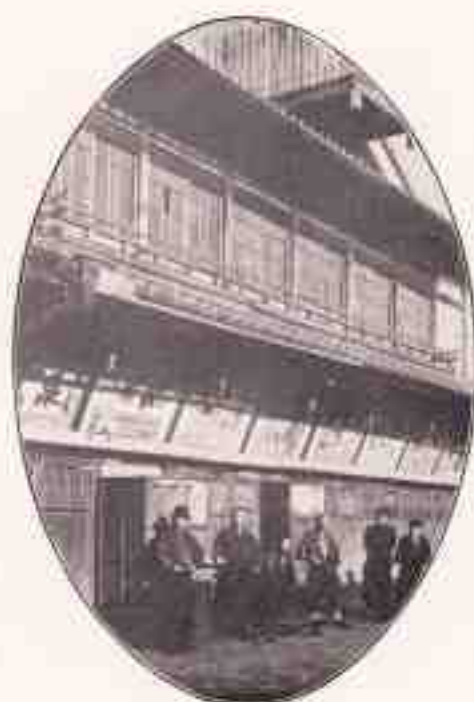


日活活動寫眞  
經營常設

岸和田館

岸和田市上堺町

電話三五五番



劇場

和泉座

岸和田市下野町

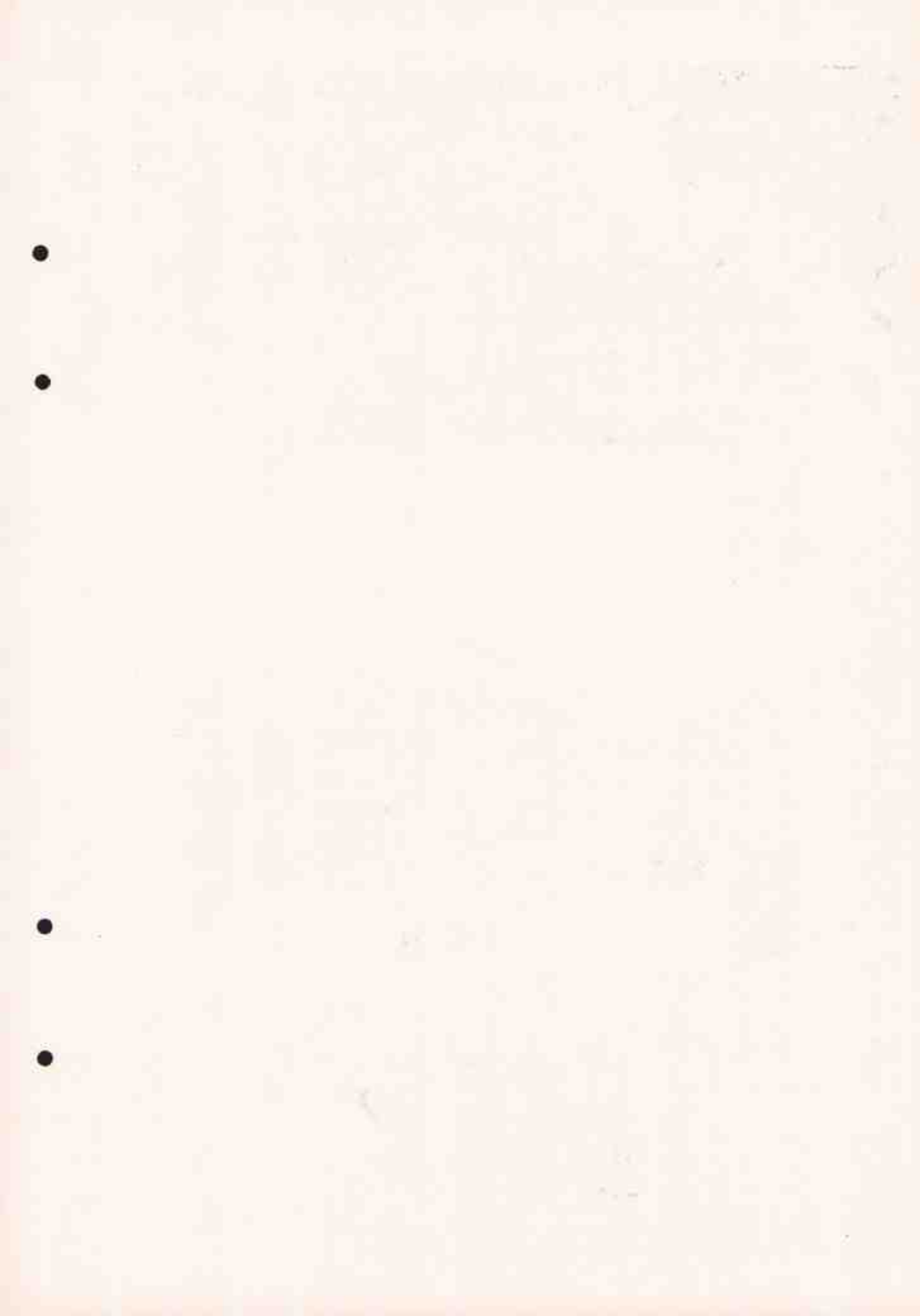
電話四二六番

TSUTSUDA  
SHOEMAKER & CO.

靴作華

町本市田和岸  
所靴製田津





# 福 新 光



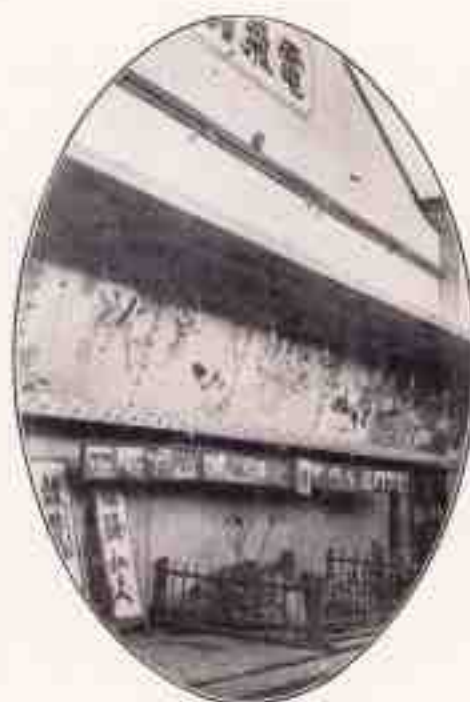
高岡製靴所

岸和田警察署前

原田式織機株式會社  
新田帶革製造所  
代理店

紡織用品  
諸金物  
合名會社  
小林商店

岸和田市蘭干橋  
電話 百八番  
振替 大阪三四五二一番



活動寫真常設

電氣館

岸和田市北町

福清織物合名會社

岸和田市沼町

電話 一一七番



大

阪

堂

大 阪 堂 米 穀 引 取 所 一 員 同

片山政藏商店

電話 長北 二一〇〇・二一〇三  
二一〇二・六四一

磯田甚七商店

電話 長北 三二五・三一六

① 岡米吉商店

電話 長北 二六六・二六七・二六八  
二六九・二七〇

植田彌太郎商店

電話 長北 一六八九・六九〇  
二三八五

坪楠井辰次良商店

電話 長北 三二三・三二四

中村與三兵衛商店

電話 長北 四一〇・四一一

福

物

福

大坂堂米穀取引所員一同

花田中喜三治商店

電話 長北 二五五〇・五五一  
二五五二

③ 太田正兵衛商店

電話 長北 三三三三・三三三四  
三三三六

卜 福井寅吉商店

電話 長北 七〇九・七一〇

④ 牛尾友治商店

電話 長北 二七七二・二七二三  
二七二四

ㄟ 上田楠太郎商店

電話 長北 六六一・六六二  
六六三・六六四

ㄟ 列田林豊之助商店

電話 長北 二九七・二九八  
二九九

福

別

福

大 阪 堂 島 米 穀 引 取 所 一 員 同



磯崎精一商店

電話 長北 二一七二・一七三  
二一七六・三六二九

⑤ 芳賀重之助商店

電話 長北 五四二・五四三  
五四四・一六六二

今井延太郎商店

電話 四六九・二六一九・一八八〇  
長北 四六八・四七〇・自宅南四五六

今須々木庄平商店

電話 長北 一二三・一二四

山本安次郎商店

電話 四〇七・一八五三・一〇三八  
長北 四〇八・一二七九

希田中金次郎商店

電話 長北 三四二・三四三  
三四四



大 阪 堂 米 島 引 取 所 一 員 同

① 村上讚十郎商店

電話長北 一九四一・九四二  
一七九五

② 今村忠四郎商店

電話 二一五七〇・一五七二  
長北 二四三五・一六八〇

合 潮先藤次郎商店

電話長北 三一七・三一八

合 木村四郎兵衛商店

電話長北 八〇六・九二四

合 増田庄太郎商店

電話 二一五七三・一六一八  
長北 二六一九・一二九三

い 池田梅藏商店

電話 二一六四一・一六四二  
長北 二六六三



子



大 阪 堂 島 米 穀 引 取 所 一 員 同

全渡邊鍵次郎商店

電話 北(四)五二・四五二  
四五三

さ 水榼左内商店

電話 (二二四・一二二六・一二三  
北 (二二五・二七〇一・二七一  
二七三六・三六四九

つ 辻井米吉商店

電話長北 三六〇・三六一  
三六二

◆ 藤本徳太郎商店

電話 候北  
一一八七四・一九四八  
一九三三・五五五二

は橋本福藏商店

電話 44-4051

長文箭郡次郎商店

電話表北  
一四二・一四三  
一四四・三六五八  
三六五七

福

物

福

大 阪 堂 米 穀 引 取 所 一 員 同

三 林 傳 商 店

電話 長北 三三三・三三三

刃 森 岡 儀 藏 商 店

電話 長北 二五五・二五六・二五七  
二五八・二五九

一 武 貞 岩 次 郎 商 店

電話 長北 二四九三・三四五  
四九四

大 岸 上 富 貴 太 商 店

電話 長北 二四〇・二四〇・二  
四〇・二四〇・二四〇・二四〇

久 吉 田 大 藏 商 店

電話 長北 二二七・二二八  
二二九

イ 三 島 市 兵 衛 商 店

電話 長北 二二二・二二五・二  
二六

福

物

福

大坂堂島米穀取引所員一同

一村岡金一商店

電話表北  
(二七七・二六二)  
(二七八・三五二)  
(一〇八・三九四)  
一

今片山定藏商店

電話(三〇五・三〇六・三〇七)  
表北(八九五・三五三八)

安達捨治郎商店

電話表北(四五六・四四五)  
(四五八・四四九)  
一

命山中光治郎商店

電話表北  
(二七五・二七六)  
(二四三)  
(一〇三三・一〇三三)  
三

力藤岡聰之介商店

電話表北(二九九・一七二)  
(一四四五)

世福田清太郎商店

電話表北(一〇四七・一〇四八)  
(四一九五)

福

物

福

大坂堂米穀取引所員一同

㊦

菅理三郎商店

電話長北  
二二七三・二六五一  
二二七四・五一八五

㊧

近藤長治商店

電話長北  
二二六二・二二一七  
二二八二・一九七

㊨

岩間桂次郎商店

電話  
長北二八五九・一四九八  
長北二五四九・六

㊩

象忠次郎商店

電話長北  
一三七二・一六二五

㊪

山本旦三郎商店

電話長北  
三三二五・三三二六

㊫

林治作商店

電話  
長北八五三・八五四・八五五  
北四一五・六一・四一・二六

福

羽

大

大 阪 堂 米 島 引 取 所 一 員 同

大 白 羽 克 己 商 店

電話 長 北 (九一五・九一六)  
五五九七

キ 水 野 鐘 太 郎 商 店

電話 長 北 一七四五・二四二〇

北 北 林 伊 一 郎 商 店

電話 長 北 (七九七・二二九八)  
七九八・一九八一

② 新 井 正 治 商 店

電話 長 北 (七八一・七八二)  
二五九六・二四一九  
三七一〇・二六九七

三 三 木 信 一 商 店

電話 長 北 (五八二・五八二六)  
五八二七・五八二八

⑦ 安 邨 吉 兵 衛 商 店

電話 長 北 六五〇・六五一

福

福

福

大 阪 堂 米 島 穀 引 取 所 一 員 同

マ

松尾鶴男商店

電話長北 三三六〇・三三六四

セ

小河清太郎商店

電話長北 三一一・三一二・九七七

万 柿原百松商店

電話(四九七一・四九七二)  
長北(四九七三)

分 加納幸吉商店

電話長北(一五八・一五九)  
(三八六・三八七)

三 二川茂助商店

電話長北(二五二・二五三)  
(二五四・五九一)

田 北浦善吉商店

電話長北 一二九五・四七五六

福

物

福

大 阪 堂 島 米 穀 引 取 所 一 員 同

巴 太田太右衛門商店

電話三〇八・三〇九  
長北二七四八

刈 荒野權四郎商店

電話長北 二〇八七・二〇八八

全 妹尾與志夫商店

電話長北 三三三三・二〇八五  
三三三四

## 覺よ!! 迷夢より

今や財界には暗雲低迷し或は未曾有の入超來あり或は國辱的外債の成立するあり或は中間景氣の虛呼あり益々多事多端なるの秋本興信所は此難關に當り我泉州財界に幾分の寄與する所あらば幸甚之に過ぎず諸彦の御利用の榮を賜らむことを

岸和田市沼町

## 岸和田興信所

營業課目

- 一、一般調査事務
- 二、不動産ノ管理
- 三、貸金ノ代理  
取立

電話 四四一番  
電信 略號 コ又シン

所主 南又六  
法律顧問 木下清一郎

本興信所の三信條 精確 迅速 秘密嚴守

大正十三年四月廿三日印刷  
大正十三年四月三十日發行

(實費頒布)

編輯兼  
發行者

大阪府岸和田市岸城町一七五五  
市制  
記念  
岸和田要鑑編輯纂所

印刷者

和歌山市杉之馬場二丁目七番地  
小池秀太郎

印刷所

和歌山市杉之馬場二丁目七番地  
和歌山印刷株式會社





